

WP-DC34

キヤノン デジタルカメラ ウォータープルーフケース

ユーザーガイド

日本語

Canon Digital Camera Waterproof Case

User Guide

ENGLISH

Wasserdichtes Gehäuse für Canon Digitalkamera

Benutzerhandbuch

DEUTSCH

Canon Funda impermeable para cámara digital

Guía del usuario

ESPAÑOL

Boîtier étanche pour appareils photo numériques Canon

Guide d'utilisation

FRANÇAIS

Canon Custodia Impermeabile per Fotocamera Digitale

Guida dell'utente

ITALIANO

佳能数码相机防水套

使用说明书

中文

日本語

本書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。また、お読みになった後は、大切に保管してください。

保証書は必ず「購入店・購入日」などの記入を確かめて、購入店でお受け取りください。

お使いになる前に

- お買い上げいただきありがとうございます。キヤノンデジタルカメラにウォータープルーフケースを装着すると、雨天時や海辺、スキー場での撮影のほか、水深40m以内での水中撮影を楽しむことができます。
- ご使用前に、必ず、正常に動作するか、水漏れはないかを確認してください。水漏れを確認するには、カメラを収納する前に、ウォータープルーフケースを閉じ、約15cmの深さの水に3分間ほど沈めてください。さらに、カメラを収納した状態でも同様の確認をしてください。水漏れが起きたときは、修理受付窓口へお持ちください。

- 取り扱い上の不注意により、万一、水漏れ事故を起こした場合、内部機材(カメラやバッテリー、メモリーカードなど)の損傷、および記録内容や撮影に要した諸費用などの補償はご容赦ください。また、本製品の不具合により撮影されなかった場合の付随的損害(撮影、撮影に要した諸費用および得るべき利益の損失など)については、補償いたしかねます。
- カメラに付属のカメラユーザーガイドもよくお読みください。

付属品の確認

本製品のパッケージには、以下の製品が入っています。万一、不足のものがありましたら、お手数ですがお買い求めの販売店までご連絡ください。

- ・ ウォーターブルーフケース
- ・ ネックストラップ
- ・ リストストラップ
- ・ 拡散板
- ・ 防水パッキン用シリコングリース
- ・ ユーザーガイド(本書)
- ・ 保証書

別売品

- ・ キヤノンウォーターブルーフケース
ウェイト WW-DC1

ウォーターブルーフケースを使って水中で撮影するとき、ケースが浮かばないようにするためのおもりです。

ウェイトの推奨装着枚数は、主な仕様(p.17)でご確認ください。また、取り付け方法は、ウェイトの取扱説明書をご覧ください。

安全上のご注意

- ご使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。必ずお守りください。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が重傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容です。必ずお守りください。



禁止

この表示は禁止内容を意味します。

警告

- ① ウォータープルーフケースを使用したあとは、必ずカメラを取り出してください。カメラを入れたまま、直射日光のあたる場所や高温になるところに放置しておくと、発火や破裂などの原因になることがあります。
- ② ウォータープルーフケースを浮き袋代わりに使用しないでください。
- ③ 水中でのネックストラップのご使用は、ネックストラップが首に巻きつくなど、思わぬ怪我や事故の恐れがありますので、水中では、ネックストラップを外して、リストストラップをお使いください。

⚠ 注意

- ① 水深 40m を超える水中では使用しないでください。動作不良や故障、水漏れの原因となります。
- ① 水中でウォータープルーフケースのボタンやレバーを必要以上に強く押さないでください。ケースがゆがんで、水漏れの原因となります。
- ① 洗浄する際、防水パッキンに水道水を勢いよく当てないでください。水漏れの原因となります。
- ① 分解や改造をしないでください。水漏れの原因となります。
- ① 防水パッキンやその接触面に傷を付けたり、異物（砂やゴミ、頭髮など）を挟み込まないようにしてください。水漏れの原因となります。
- ① 40℃を超える温水の中では使用しないでください。熱によって変形し、水漏れの原因となります。
- ① 直射日光が当たる場所、熱器具の近く、夏季の密閉した車内などの高温になる所に放置しないでください。熱によって変形し、水漏れの原因となります。直射日光の当たる所では、タオルなどをかけて遮光してください。

取り扱い上のご注意

- ウォータープルーフケースを投げたり、落としたりしないでください。
- 付属のシリコングリース以外のオイル、薬品などは、ウォータープルーフケースの強度を損なうことがありますので、使用しないでください。付着した場合は、すぐに拭き取ってください。
- 海辺や海上でのウォータープルーフケースの開閉は、できるだけ避けてください。カメラの取り付けやメモリーカード、バッテリーの交換などは、湿気の少ない、潮風の当たらない場所で行ってください。
- 高温での長時間のご使用は避けてください。
- 寒冷地でお使いのときは、バッグに入れるなどして極端に冷えないようにし、撮影するときのみ出して使用するようにしてください（寒冷地では、通常よりもバッテリーの使用時間が短くなります）。また、周囲温度 0℃ 以下でのご使用はおすすめできません。
- 短い時間で寒暖の差が大きい場所へ移動すると、ウォータープルーフケースの内部に水滴がつくこと（結露）があります。結露は故障の

原因となりますので、ご注意ください。なお、結露してしまったときは、ウォータースプルーフケースからカメラを取り出し、ウォータースプルーフケースとカメラについた水滴を乾いたやわらかい布で拭き取り、それぞれ数時間放置してください。

水漏れについて

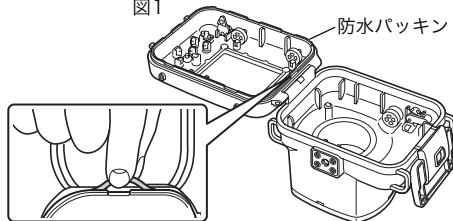
万一、水漏れが確認された場合には、ただちに撮影を中止してください。そのまま使用すると発火や感電の原因となりますので、絶対に使用しないでください。ウォータースプルーフケース内部とカメラの水分を十分に拭き取り、至急、お近くの修理受付窓口へお持ちください。

防水パッキンについて

- 防水パッキンに異物(砂やゴミ、頭髮など)が付いていると、水漏れの原因になります。髪の毛一本、また微小な砂粒一個が挟まっているだけで水漏れする場合があります。

- 防水パッキンをウォータースプルーフケースから取り外すときは、防水パッキンに傷を付けないよう、指で外してください(図1参照)。爪を立てたり、先のとがったものや金属などをお使いにならないでください。
- 防水パッキンは、引っ張らないようにしてください。防水パッキンを引っ張ると伸びてしまい、ケースが閉まりにくくなり、水漏れの原因になります。
- 防水パッキンをウォータースプルーフケースに取り付けるときは、よじれたり、無理に引っ張ったり、高さが変わらないよう十分にご注意のうえ、正しく装着しているかを必ずご確認ください。

図1



- シリコングリースを塗りすぎると、水漏れの原因になります(米粒1粒程度が適量です)。塗りすぎないように注意してください。
- シリコングリースを塗るときには、布や紙などを使わないでください。
- 防水パッキンの傷やひび割れは水漏れの原因となります。ただちに修理受付窓口へお持ちください。有償で新しい防水パッキンと交換します。

ウォータースタールケースの防水性能を維持するために、1年に1度は下記の方法で防水パッキンの交換をおすすめします。

- ・修理受付窓口で、有償にて交換させていただきます。
- ・修理受付窓口で販売しておりますので、前ページの手順に従って、ご自分で交換できます。

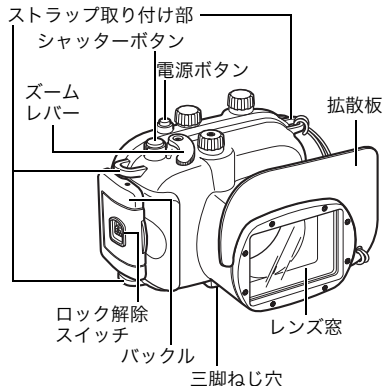
なお、シリコングリースも修理受付窓口で販売しております。

お手入れのしかた

- 使用後は、ウォータースタールケースの外部を、なるべく早く真水(30℃以下の水道水など)で十分に洗ってください。海で使った場合は、塩分を落とすため真水に数時間漬けておくことをおすすめします。**ケース内部に水が入らないように、バックルがしっかりロックされていることを確認してください。**水洗い終了後は、乾いたやわらかい布で水分を十分に拭き取ってください。砂などが付いたまま直接拭くと表面に傷を付ける恐れがあります。また、塩分が付いたままにしておくと、金属部分がさびたり、ボタンが動きにくくなることがあります。ウォータースタールケース内部は、乾いた布で拭き、水洗いしないでください。

各部の名称

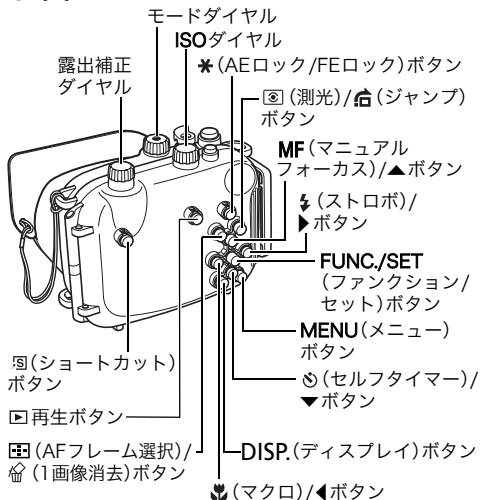
前面



レンズ窓についてのご注意

レンズ窓が汚れていると、撮影画像に汚れが写り込んでしまう場合がありますので、乾いたやわらかい布で軽く拭き取ってください。

背面



準備

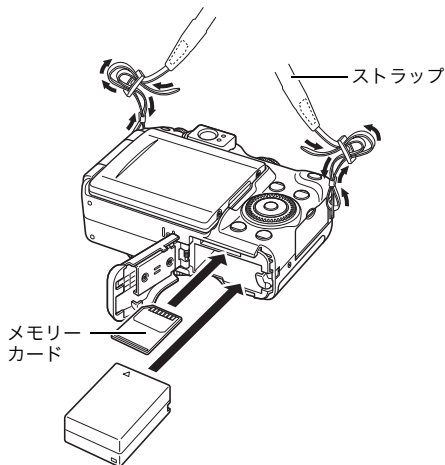
カメラを準備します

1 カメラの電源が入っていないことを確認し、カード / バッテリー収納部ふたを開きます。

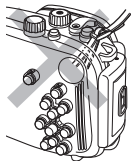
2 バッテリーとメモリーカードを入れます。

- ・ バッテリーとメモリーカードの入れかたは、カメラユーザーガイドでご確認ください。
- ・ 十分に充電されたバッテリーをお使いください。
- ・ メモリーカードの撮影可能枚数をご確認ください。

3 カメラのストラップを外します。



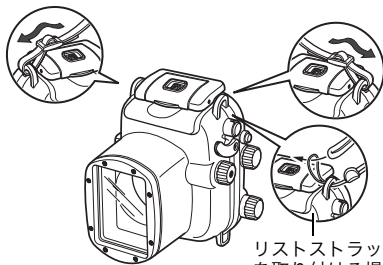
ストラップを付けたままカメラを取り付けると、ウォータプルーフケース開閉部にストラップを挟み、水漏れの原因となります。



ウォータプルーフケースに、カメラ用のストラップを使用しないでください。

ウォータプルーフケースを準備します

- 4** ネックストラップを図のように2ヶ所に取り付け、首にかけやすい長さに調節してください。



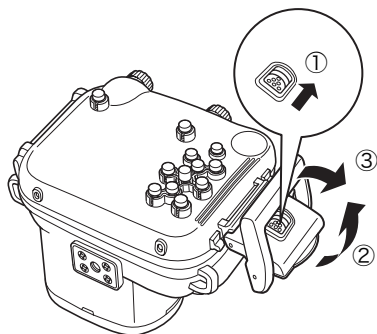
リストストラップ
を取り付ける場合



ネックストラップは、海辺でカメラを首にかけるときにお使いください。水中では、ネックストラップを外して、リストストラップをお使いください。ネックストラップをお使いになると、首に巻きつくなど、思わぬけがや事故の恐れがあります。

5 ロック解除スイッチを矢印の方向へずらしながら、バックルを外してケースを開きます。

- ・くもり止め(市販)をお使いになる場合は、レンズ窓の内側のみにお使いください。くもり止めを塗る際には、乾いたやわらかい布をお使いください。くもり止めがレンズ窓の内側以外に付着した場合、ウォータープルーフケースの劣化をまねく恐れがありますので、すぐに拭き取ってください。



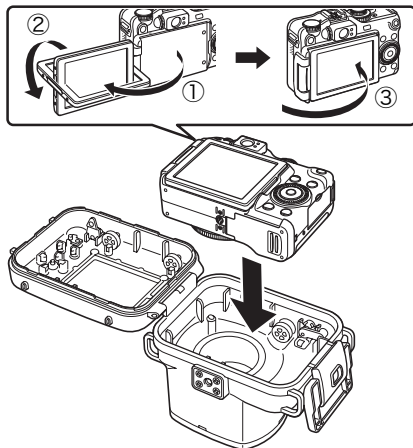
防水パッキンの摩耗や劣化を防ぐためウォータープルーフケースを使用する前に、パッキン全面にごく薄くシリコングリースを塗ってください。

防水パッキンの取り扱い上の注意については、「防水パッキンについて(p.5)」を参照してください。

1. 防水パッキンを取り外します。
2. 防水パッキンと防水パッキンが埋め込まれていた溝の異物(砂やゴミ、頭髮など)を綿棒などで拭き取ります。
3. 指にシリコングリースを少量(米粒1粒程度)取ります。
4. 傷を付けないように注意しながら、防水パッキン全面に**均一**にシリコングリースを塗ります。
5. 防水パッキンを溝に取り付けます。

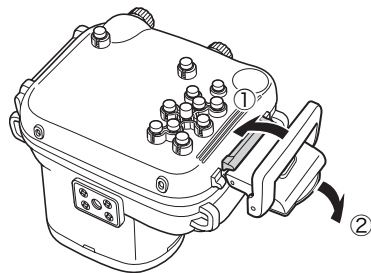
カメラにウォータープルーフケースを取り付けます

- 6 カメラの液晶モニターを開き、図のように入れます。

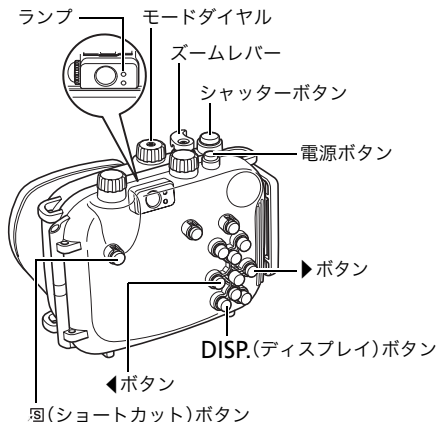


7 ウォータープルーフケースを閉じます。

- ・ 防水パッキンやその接触面、接点部に異物(砂やゴミ、頭髮など)が付いていないことをよく確認してください。**髪の毛一本、また微小な砂粒一個**が挟まっているだけで、水漏れすることがあります。
- ・ バックルがしっかりロックされていることを確認してください。



撮影



1 電源ボタンを押して、電源を入れます。

2 目的のモードにします。

3 必要に応じて、各設定を行います。

- ・ DISP.ボタンを押して液晶モニターをつけます。
- ・ ズームレバーで画角を調整できます。

撮影モードをスペシャルシーンモードの🌊(水中)に設定する

水中で撮影するときに、スペシャルシーンモードの🌊に設定すると、水中に最適なホワイトバランスに設定され、青みをおさえた自然な色あいで撮影できます。

1. モードダイヤルを **SCN** (スペシャルシーンモード) に合わせます。
2. 図(ショートカット)ボタンを押しながら、◀か▶ボタンを押して🌊を選びます。

黒、P、Tv、Av、Mで撮影するとき
FUNC.メニューでホワイトバランスを  (水中) に設定できます。
また、 ボタンに  または  (マニュアルホワイトバランス1または2) を登録しておくと、 ボタンを押すだけで白データを取り込むことができます。
状況に応じてホワイトバランスを調整したい場合に、おすすめします。

4 液晶モニターを見ながら構図を決めます。 シャッターボタンを半押しし、上側のランプが緑またはオレンジになったら全押しします。

- ・ 撮影するときは、レンズ窓はいつもきれいにしておいてください。
- ・ 撮影時に指やストラップがレンズ窓やストロボ、拡散板にかからないように注意してください。

- ・ 節電機能が働いて電源が切れたときは、再度電源ボタンを押してください。
- ・ ファインダーを使っでの撮影はできません。
- ・ ファインダーを使った撮影はできないため、モードダイヤルを  にしても正しく撮影できません。

コントローラーホイールの使いかた

コントローラーホイールの使いかたは、カメラ本体での操作方法と異なります。

1. コントローラーホイールを時計回ししたいときは、 ボタンを押しながら  ボタンを押します。
2. コントローラーホイールを反時計回ししたいときは、 ボタンを押しながら  ボタンを押します。

5 使い終わったら、カメラの電源を切ります。

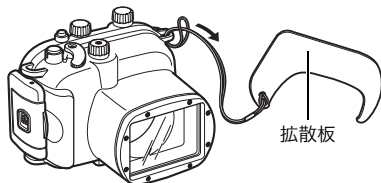
ストロボを使って撮影する場合

ストロボ光が均一に被写体にあたるように、拡散板を取り付けて撮影してください。

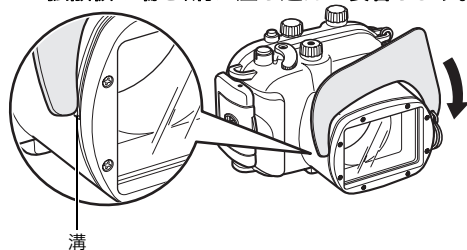
- ・ 拡散板の表面に傷を付けないでください。ストロボ光が正しく拡散できなくなる場合があります。
- ・ ストロボ撮影したとき、画像の周辺が暗くなることがありますので、拡散板を取り付けて撮影してください。ただし、被写体が近すぎる場合には拡散板を使っても十分に効果が表われないことがあります。

取り付けかた

1 図のように、拡散板のひもを取り付けます。

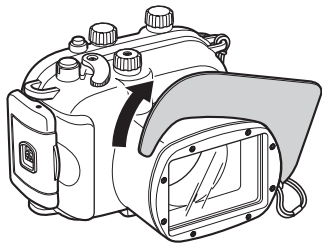


2 拡散板の端を、溝に差し込んで装着します。



取り外しかた

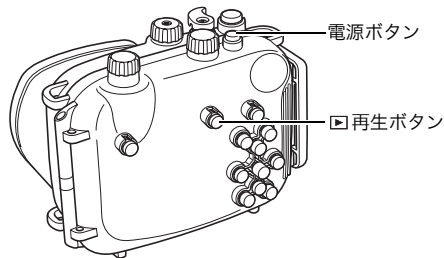
拡散板を持ち上げて取り外します。



再生

1

▶ (再生)ボタンを押します。



2

使い終わったら、カメラの電源を切ります。

ウォーターストールケースを使用したあとは、必ずカメラを取り出してください。カメラを入れたまま、直射日光のあたる場所や高温になるところに放置しておくと、発火や破裂などの原因になることがあります。

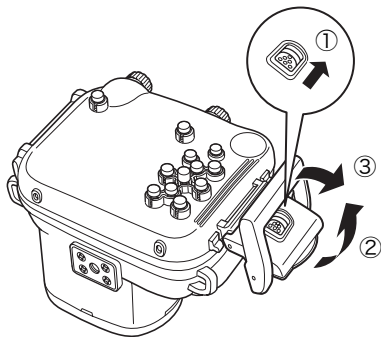
カメラを取り出す

1 使用後は、ウォーターストープケースに付いている水滴を十分に拭き取ります。

- ・ウォーターストープケースに付いているゴミや砂、頭髮などは取り除いてください。また、真水でよく洗い流して、塩分などが残らないようにしてください。

2 ロック解除スイッチを矢印の方向へずらしながらバックルを外し、後部カバーを開け、カメラを取り出します。

- ・ウォーターストープケースを開ける際に、体や頭髮から、ケース内またはカメラに水滴が落ちないように注意してください。
- ・ウォーターストープケース内部は、乾いた布で拭き、水洗いしないでください。



保管するときは

- 防水パッキンの変形を防いだり、防水効果を保つため、ウォータープルーフケースを開いた状態で保管してください。
- 防水パッキンにほこりや傷を付けないように保管してください。
- 高温、低温、多湿な場所や、ナフタリンなど防虫剤のある所での保管は避けてください。

補修用性能部品について

保守サービスの為に必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打ち切り後7年間です。(補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

主な仕様

防水性能：IEC/JIS保護等級「IPX8」相当、水深：40m以内

防水構造：パッキン、Oリングなど

主要材質：ポリカーボネート、ABS、白板ガラス、EPDMなど

カメラ性能保証温度範囲：0～40℃

大きさ：153.5×107.5×119.1mm
(突起部を除く)

体積：約1150cm³

質量：約575g (ウォータープルーフケースのみ*)

WW-DC1 (別売) の推奨装着枚数：4枚

* 拡散板を含む

- ・ 記載データはすべて当社試験基準によります。
- ・ 製品の仕様、および外観の一部を予告なく変更することがあります。

MEMO

Disclaimer

- While every effort has been made to ensure that the information contained in this guide is accurate and complete, no liability can be accepted for any errors or omissions. Canon reserves the right to change the specifications of the hardware and software described herein at any time without prior notice.
- No part of this guide may be reproduced, transmitted, transcribed, stored in a retrieval system, or translated into any language in any form, by any means, without the prior written permission of Canon.
- Canon makes no warranties for damages resulting from corrupted or lost data due to a mistaken operation or malfunction of the camera, the software, memory cards, personal computers or peripheral devices.

Please read this manual carefully to operate the Waterproof Case correctly.
Store this manual in a safe place for further reference once you have read it.

Introduction

- Thank you for purchasing this Waterproof Case. Once installed in the Waterproof Case, you can use your Canon Digital Camera in the rain, at the beach or on the ski slopes. You can also use it underwater at depths down to 40 meters (130 ft.) and in wet or dusty environments.

- Before you use the Waterproof Case, please make sure the case is functioning correctly and does not leak. Close the Waterproof Case before putting the camera inside it, and hold it underwater at an approximate depth of 15 cm (5.9 in.) for around three minutes to check for leaks. Perform a similar check after you install the camera. If it leaks, contact your Canon Customer Support Help Desk.

- Canon Inc., its subsidiaries and affiliates, and distributors of the Waterproof Case are not liable for any consequential damages arising from corrupted or lost data due to mistaken operation or malfunction of the Waterproof Case, the camera, the battery or the memory card that results in the failure of an image to be recorded.
- Please carefully read the *Camera User Guide* supplied with your camera also.

Unpacking

The Waterproof Case is shipped with the items listed below. Please check your package now to confirm that it is complete. Contact your Canon dealer if anything is missing.

- Waterproof Case
- Neck Strap
- Wrist Strap
- Diffusion Plate
- Silicone Grease for the Waterproof Seal
- User Guide (this guide)

Sold Separately

- Canon Waterproof Case Weight WW-DC1

When using the Waterproof Case to take photographs underwater, the weights prevent the case from floating. Please refer to the specifications (p. 19) for information regarding the number of weights recommended for installation. For information on attaching the weights, please refer to the user guide for the weights.

Safety Precautions

Before you use the Waterproof Case, thoroughly read these precautions to ensure correct use.

The precautions described below are for ensuring safe use of the Waterproof Case and for preventing danger and damage to yourself and others. Thoroughly understand the details of these precautions before reading the rest of this manual.

- After you use the Waterproof Case, be sure to remove the camera from it. If you leave the Waterproof Case containing the camera in direct sunlight or in a high-temperature place, this may cause a fire or the case to burst.
- Do not use the Waterproof Case in place of a personal flotation device (life jacket).
- Do not use the neck strap underwater. Remove the neck strap and attach the wrist strap before use underwater. There is danger that the neck strap will become entangled and cause strangulation or another mishap.
- Do not use the Waterproof Case at water depths exceeding 40 meters (130 ft.). The case may malfunction, suffer damage or leak.

- Do not press the buttons or the lever of the Waterproof Case with unnecessary force when in the water. This may warp the casing and cause leaks.
- When cleaning the case, do not spray water at the waterproof seal under pressure. This may cause leaks.
- Do not disassemble or modify the Waterproof Case. This may cause leaks.
- Do not damage the waterproof seal, scratch its contact surfaces, or allow dirt, sand, hair or other debris to accumulate between the waterproof seal and the case. This may cause leaks.
- Do not use the Waterproof Case in water at temperatures above 40 °C (104 °F). Heat may warp the casing and cause leaks.
- Do not leave the Waterproof Case in direct sunlight, inside a car in hot weather, or near a heater. Heat may warp the casing and cause leaks. Cover it with a towel, for example, if you have to leave it in the sun.

Handling Precautions

- Do not drop or throw the Waterproof Case.
 - Use only the supplied silicone grease. Use of other waterproofing products may impair the strength of the Waterproof Case. If any other waterproofing product is mistakenly applied, wipe it off immediately.
 - Avoid opening or closing the Waterproof Case near water. When you are installing the camera or changing the memory card or the battery, choose a place with low humidity well away from salty sea air.
 - Avoid using the Waterproof Case for long periods of time in hot temperatures.
- Battery life is reduced in cold temperatures. When you use the Waterproof Case in very cold places, keep it warm by putting it in a bag whenever you are not shooting. It is not advisable to use the Waterproof Case in temperatures below the freezing point.
 - Moving the Waterproof Case rapidly between hot and cold temperatures may cause condensation (water droplets) to form on its internal surfaces. If this occurs, stop using the camera immediately as the condensation may cause a malfunction. Remove the camera from the Waterproof Case and wipe off the condensation from the Waterproof Case and the camera with a soft and dry cloth, and wait until the moisture evaporates completely before resuming use.

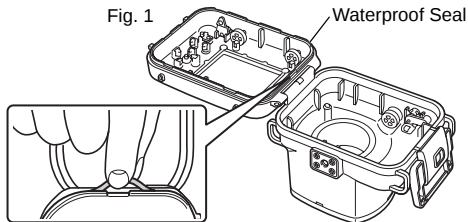
About Water Leakage

Stop shooting immediately if the Waterproof Case leaks. If you use the camera in this state, this may cause a fire or electric shocks. Never use it in this state. Thoroughly wipe the Waterproof Case interior and the camera dry. Please contact your Canon Customer Support Help Desk.

Waterproof Seal

- Debris (e.g. sand, dirt or hair) stuck to the waterproof seal may cause water leakage. Catching a single strand of hair or a tiny grain of sand in the seal can cause leaks.
- When removing the seal from your Waterproof Case, use your fingers so you do not damage the waterproof seal (as shown in Fig. 1). Do not dig your fingernails into it or use pointed or metallic objects to remove it.
- Do not pull the waterproof seal. Pulling the seal may overstretch it, which may cause the case to not close properly and cause leaks.
- While mounting the waterproof seal, do not twist or pull the seal with force. Extreme care should be taken to ensure the waterproof seal is level around the mounting groove. Please check to ensure that the waterproof seal is working.

Fig. 1



- Be careful not to apply too much grease. Applying too much grease to the seal may cause water leakage (about a droplet is sufficient).
- Do not use paper or cloth to apply the grease to the seal.
- A damaged or cracked waterproof seal may cause leaks. Please contact your Canon Customer Support Help Desk.

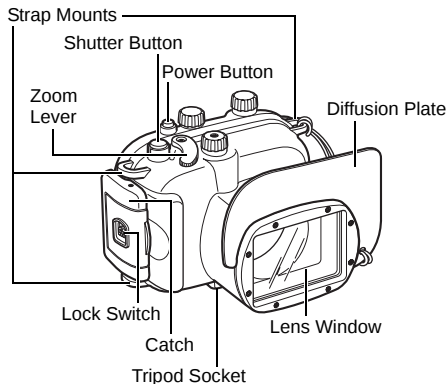
To ensure that the Waterproof Case remains waterproof, it is recommended to replace the seal once a year. Please contact your Canon Customer Support Help Desk.

Care and Maintenance

- Wash the exterior of the Waterproof Case with enough clean fresh water (tap water under 30 °C/ 86 °F, etc.) as soon as possible after using it. It is particularly advisable to soak it in fresh water for several hours after use in salt water to remove salt deposits. **Please check that you have locked the catch securely to prevent water from entering the case.** Wipe it dry with a soft cloth after washing. To avoid scratching the Waterproof Case, do not wipe it while any sand or grit remains on it. The metal parts may rust or the buttons may become hard to press if salt deposits remain. Wipe the interior of the case with a soft, dry cloth. Do not wash it with water.

Components

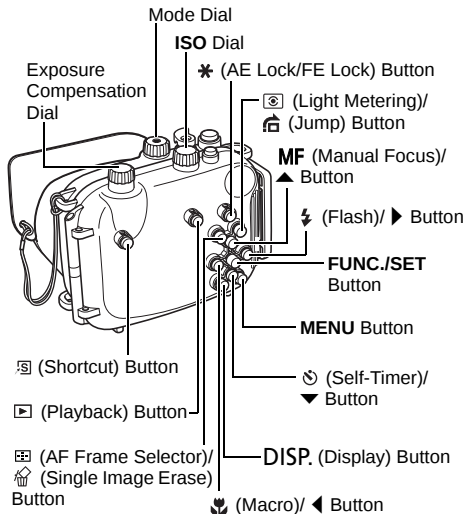
Front



Lens Window

Since dirt or smudges on the lens window may show in photographs, keep the lens window clean by wiping it gently with a soft, dry cloth.

Back

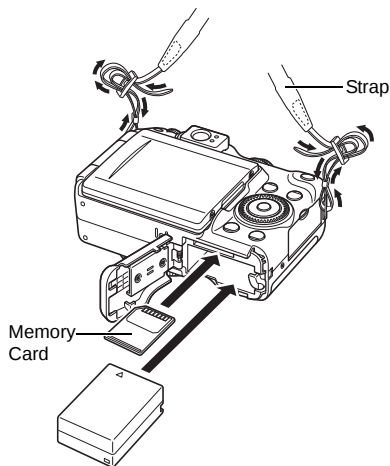


Preparations

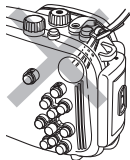
Preparing the Camera

- 1** Confirm that the camera's power is off and open the memory card slot/battery cover.
- 2** Insert the battery, and the memory card.
 - Please refer to the *Camera User Guide* for information regarding the installation methods for the battery and memory card.
 - Use a battery that is adequately charged.
 - Ensure you have enough storage space on your memory card to record your images.

- 3** Remove the camera's strap.



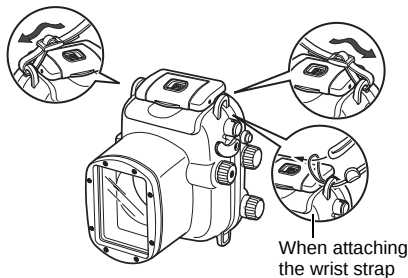
Inserting the camera while the strap is attached could trap the strap in the Waterproof Case closure and cause leaks.



Do not use the camera's strap as a strap for the Waterproof Case.

Preparing the Waterproof Case

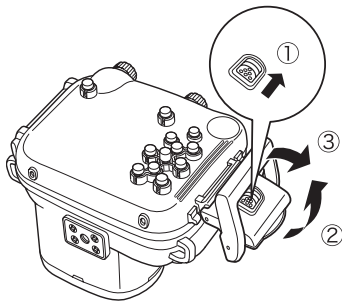
- 4** Fasten both ends of the neck strap to the strap mounts as shown, and adjust it to a comfortable length.



Use the neck strap when carrying the camera on the beach. Remove the neck strap and attach the wrist strap before use underwater. There is danger that the neck strap will become entangled and cause strangulation or another mishap.

5 Slide the lock switch as shown, and release the catch to open the back cover.

- When using commercially available anticondensation products, the anticondensation solution should only be applied to the inside surface of the lens window using a soft cloth. If anticondensation solution comes in contact with any surface other than the inside of the lens window, wipe it off immediately with a soft, dry cloth, as it could lead to deterioration of the Waterproof Case.



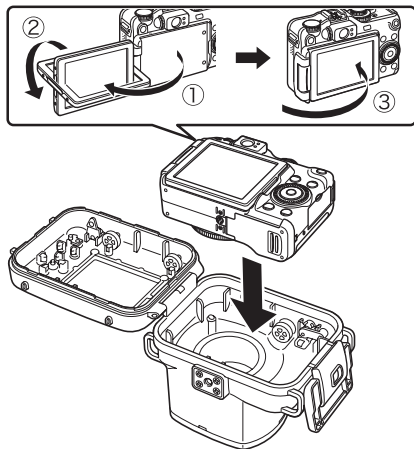
Apply a thin coat of grease to the entire seal before using the Waterproof Case in order to prevent abrasion and deterioration.

For waterproof seal handling precautions, see “Waterproof Seal” on page 6.

1. Remove the waterproof seal.
2. Using a cotton swab, wipe off any debris (e.g. sand, dirt or hair) which is present on the waterproof seal and on the seal mounting groove of the Waterproof Case.
3. Apply a small amount (droplet) of grease to your fingertip.
4. Evenly coat the entire surface of the waterproof seal, taking care not to scratch the surface.
5. Place the waterproof seal back in the seal mounting groove of the Waterproof Case.

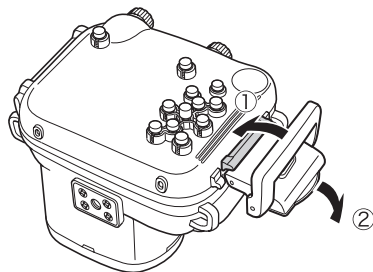
Installing the Camera

- 6** Open the LCD monitor, and insert the camera into the Waterproof Case as shown.

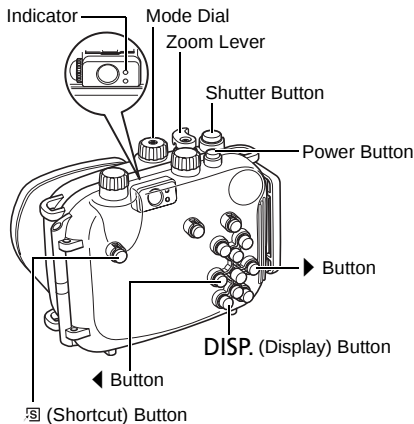


7 Close the Waterproof Case.

- Make sure that the waterproof seal and its contact surfaces are free of debris (e.g. sand, dirt or hair). **Catching a single strand of hair or a tiny grain of sand in the seal can cause leaks.**
- Make sure that the catch is fastened properly.



Shooting



- 1 Press the power button to turn on the power.**

- 2 Set the mode dial to the desired mode.**

- 3 Adjust settings as required.**

- Press the **DISP.** button to turn on the LCD monitor.
- You can adjust the zoom with the zoom lever.

Setting the Special Scene mode to (Underwater)

You can obtain more natural appearing coloration underwater if you set the Special Scene mode to  (Underwater). This mode selects the optimal white balance for marine lighting and tones down the blue colors.

1. Set the mode dial to **SCN** (Special Scene mode).
2. Pressing the  (Shortcut) button, use the  or  button to select .

Shooting when the mode dial is set to , , or

You can set the white balance to  (Underwater) using the FUNC. menu for the above modes.

Please note that you can set the white balance manually with the press of a single button if you assign the  or  (Custom White Balance 1 or 2) function to the  button. This is recommended for adjusting the white balance to the shooting conditions.

4 Use the LCD monitor to compose the shot. Press the shutter button halfway and wait until the upper indicator lights green or orange. After it lights, press the shutter button all the way.

- Make sure that the lens window is always clean.
- Ensure that your fingers and wrist strap do not obstruct the lens window, flash or diffusion plate when shooting.

- If the power saving function activates and shuts off the power, press the power button again.
- You cannot shoot images using the viewfinder.
- Even if you set the mode dial to , you will not be able to take pictures correctly since you cannot use the finder.

Using the Control Dial

Using the control dial with the waterproof case differs slightly from that of the camera itself.

1. When you want to turn the control dial clockwise, press the  button while pressing the .
2. When you want to turn the control dial counterclockwise, press the  button while pressing the .

5 When you have finished using the camera, turn the camera off.

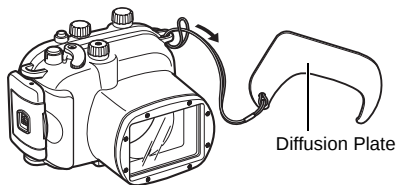
Using the Flash

In order to evenly distribute light from the flash, please attach the diffusion plate.

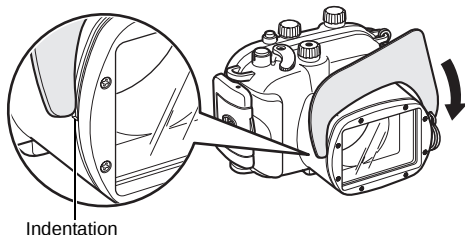
- Do not scratch the surface of the diffusion plate, as this may prevent flash light from being diffused properly.
- When shooting with the flash, parts of the image may appear dark, so be sure to attach the diffusion plate before shooting. If the subject is too close to the camera, however, the diffusion plate may be less effective.

Attaching the Diffusion Plate

- 1 Thread the cord through the mount as shown.**

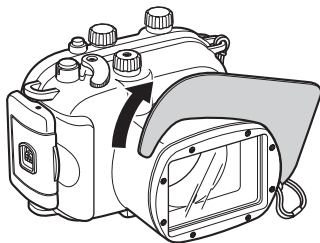


- 2 Insert the edge of the diffusion plate into the indentation.**



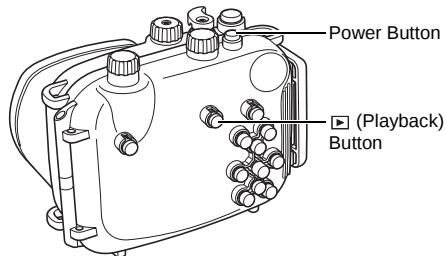
Removing the Diffusion Plate

Lift and remove the diffusion plate.



Playback

1 Press the  (Playback) button.



2 When you have finished using the camera, turn the camera off.

After you use the Waterproof Case, be sure to remove the camera from it. If you leave the Waterproof Case containing the camera in direct sunlight or in a high-temperature place, this may cause a fire or the case to burst.

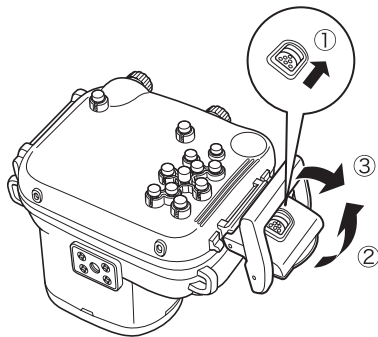
Removing the Camera

1 After use, be sure to completely dry all the water from the Waterproof Case.

- Remove any dirt, sand, hair or other debris from the Waterproof Case, and wash it with clean, running tap water to remove salt deposits.

2 Slide the lock switch as shown, and release the catch to open the back cover. Remove the camera from the case.

- Be careful not to allow drops of water from your hair or body to fall on the camera or Waterproof Case interior when the case is open.
- Do not wash the interior of the Waterproof Case with water. Wipe it with a soft, dry cloth.



Storage

- Store your Waterproof Case carefully, in an opened state to prevent the waterproof seal from deforming and to maintain its waterproof effect.
- Protect the waterproof seal from dust or scratches during storage.
- Do not store the Waterproof Case in hot, cold or humid places, or near substances such as naphthalene or insecticides.

Specifications

Waterproof Capability:

Meets IEC/JIS protection rating "IPX8" equivalent
For use within a depth of 40 m (130 ft.)

Waterproofing: Seal, O-ring, etc.

Main Materials: Polycarbonate, ABS, clear plate glass, EPDM, etc.

Camera's Operating Temperature:

0 to 40 °C (32 to 104 °F)

Dimensions: 153.5 × 107.5 × 119.1 mm
(6.04 × 4.23 × 4.69 in.)
(excluding protrusions)

Volume: Approx. 1150 cm³
(38.9 fl. oz. (US))

Weight: Approx. 575 g (20.3 oz.)
(Waterproof Case only*)

Number of Separately Sold Waterproof Case Weights (WW-DC1) Recommended for Mounting:

4 weights

* Including diffusion plate

- All data noted here are based on Canon's testing standards.
- Product specifications and appearance are subject to change without prior notice.

MEMO

Haftungsausschluss

- Obwohl die in diesem Handbuch enthaltenen Informationen mit größter Sorgfalt auf Genauigkeit und Vollständigkeit überprüft wurden, kann für Fehler oder Versäumnisse keinerlei Haftung übernommen werden. Canon behält sich das Recht auf unangekündigte jederzeitige Änderung der hier beschriebenen Hard- und Softwaremerkmale vor.
- Dieses Handbuch darf ohne vorherige schriftliche Genehmigung von Canon weder ganz noch teilweise in irgendeiner Form oder mit irgendwelchen Mitteln vervielfältigt, übermittelt, abgeschrieben, in Informationssystemen gespeichert oder in andere Sprachen übersetzt werden.
- Canon übernimmt keine Haftung für Schäden durch fehlerhafte oder verloren gegangene Daten aufgrund falscher Bedienung oder Fehlfunktion des Produkts, der Software, der Speicherkarten, von PCs oder Peripheriegeräten.

Bitte lesen Sie diese Anleitung sorgfältig, um das wasserdichte Gehäuse richtig zu bedienen. Bewahren Sie diese Anleitung nach dem Lesen für späteres Nachschlagen an einem sicheren Ort auf.

Einführung

- Vielen Dank für den Kauf dieses wasserdichten Gehäuses. Das wasserdichte Gehäuse erlaubt es Ihnen, Ihre Canon-Digitalkamera im Regen, am Strand oder auf der Skipiste einzusetzen. Sie können sie auch unter Wasser in Tiefen bis zu 40 Metern und in feuchten oder staubigen Umgebungen benutzen.

- Vergewissern Sie sich vor Gebrauch des wasserdichten Gehäuses, dass das Gehäuse ordnungsgemäß funktioniert und kein Leck hat. Bevor Sie die Kamera einsetzen, schließen Sie das wasserdichte Gehäuse, und halten Sie es etwa drei Minuten lang in einer Tiefe von ca. 15 cm unter Wasser, um es auf Lecks zu prüfen. Führen Sie nach der Installation der Kamera eine ähnliche Prüfung durch. Falls es eine undichte Stelle aufweist, wenden Sie sich bitte an Ihren Canon-Kundendienst.
- Canon Inc., ihre Tochtergesellschaften und angeschlossenen Unternehmen sowie die Distributoren des wasserdichten Gehäuses haften nicht für jegliche durch Schädigung von Daten oder Datenverluste entstehenden Folgeschäden aufgrund von falscher Anwendung oder Fehlfunktion des wasserdichten Gehäuses, der Kamera, der Batterie/des Akkus oder der Speicherkarte, die zu fehlerhafter Bildaufzeichnung führt.
- Bitte lesen Sie das mit Ihrer Kamera gelieferte *Benutzerhandbuch* aufmerksam durch.

Lieferumfang

Das wasserdichte Gehäuse wird mit den unten aufgeführten Gegenständen geliefert. Bitte überprüfen Sie die Vollständigkeit. Wenden Sie sich an Ihren Canon-Händler, falls etwas fehlt.

- Wasserdichtes Gehäuse
- Schulterriemen
- Handschlaufe
- Streuscheibe
- Silikon-Paste für Dichtungsring (O-Ring)
- Benutzerhandbuch (dieses Handbuch)

Als weiteres Zubehör erhältlich

- Canon Tauchgewicht für Unterwassergehäuse (WW-DC1)

Wird das wasserdichte Gehäuse für Unterwasseraufnahmen verwendet, so dient das Gewicht dazu, das Gehäuse zu beschweren. Weitere Informationen dazu, wie viele Gewichte eingesetzt werden sollen, finden Sie in den technischen Daten (S. 20). Lesen Sie bitte in der Bedienungsanleitung der Gewichte nach, um Informationen zur Befestigung zu erhalten.

Sicherheitsmaßnahmen

Lesen Sie diese Sicherheitshinweise vor Gebrauch des wasserdichten Gehäuses gründlich, um den korrekten Gebrauch sicherzustellen.

Die unten beschriebenen Sicherheitsmaßnahmen dienen dem sicheren Gebrauch des wasserdichten Gehäuses und der Verhütung von Gefahr und Schäden an Ihnen und an anderen Personen. Machen Sie sich mit den Details dieser Maßnahmen gründlich vertraut, bevor Sie den Rest dieser Anleitung lesen.

- Denken Sie nach dem Gebrauch des wasserdichten Gehäuses daran, die Kamera herauszunehmen. Wenn die Kamera im wasserdichten Gehäuse verbleibt und direkter Sonneneinstrahlung oder hohen Temperaturen ausgesetzt wird, besteht die Gefahr, dass ein Brand entsteht bzw. das Gehäuse bricht.
- Verwenden Sie das wasserdichte Gehäuse nicht anstelle eines Auftriebskörpers (Schwimmweste).

- Nehmen Sie vor dem Einsatz unter Wasser den Schulterriemen ab und bringen Sie die Handschlaufe an. Es besteht die Gefahr, dass der Schulterriemen sich verfängt, jemanden stranguliert oder andere Unfälle verursacht.
- Verwenden Sie das wasserdichte Gehäuse nicht in Wassertiefen von mehr als 40 Metern. Das wasserdichte Gehäuse funktioniert eventuell nicht richtig, wird beschädigt oder undicht.
- Betätigen Sie die Tasten und den Hebel des wasserdichten Gehäuses im Wasser nicht mit Gewalt. Dies könnte das Gehäuse verbiegen und undichte Stellen zur Folge haben.
- Sprühen Sie beim Reinigen kein unter Druck stehendes Wasser auf das wasserdichte Gehäuse. Dies kann Lecks verursachen.
- Zerlegen oder verändern Sie das wasserdichte Gehäuse nicht. Dies kann Lecks verursachen.

- Beschädigen Sie den Dichtungsring nicht, vermeiden Sie ein Verkratzen seiner Kontaktflächen, und sorgen Sie dafür, dass sich weder Schmutz, Sand, Haare noch andere Ablagerungen zwischen Dichtungsring und Gehäuse ansammeln können. Dies kann Lecks verursachen.
- Verwenden Sie das wasserdichte Gehäuse nicht unter Wasser bei Temperaturen über 40 °C. Hitze kann es verziehen und Lecks verursachen.
- Lagern Sie das wasserdichte Gehäuse nicht in direktem Sonnenlicht, in einem Auto bei heißem Wetter oder nahe einer Heizung. Hitze kann das Gehäuse verziehen und Lecks verursachen. Bedecken Sie es zum Beispiel mit einem Handtuch, wenn Sie es in der Sonne lassen müssen.

Vorsichtsmaßnahmen bei der Bedienung

- Werfen Sie das wasserdichte Gehäuse nicht, und lassen Sie es nicht fallen.
- Verwenden Sie nur die beiliegende Silikon-Paste. Durch die Verwendung anderer Dichtungsmittel kann die Dichtheit des wasserdichten Gehäuses beeinträchtigt werden. Falls versehentlich ein anderes Dichtungsmittel aufgetragen wird, wischen Sie es sofort ab.
- Vermeiden Sie Öffnen und Schließen des wasserdichten Gehäuses in Wassernähe. Installieren Sie die Kamera oder tauschen Sie die Speicherkarte oder Batterien/Akkus nur an einem trockenen Ort fern von salziger Meeresluft.
- Vermeiden Sie den Gebrauch des wasserdichten Gehäuses über lange Zeit bei hohen Temperaturen.
- Bei niedrigen Temperaturen verkürzt sich die Leistungsdauer der Batterien/Akkus in der Kamera. Wenn Sie das wasserdichte Gehäuse an sehr kalten Orten benutzen, halten Sie es warm, indem Sie es immer in eine Tasche legen, wenn Sie nicht fotografieren. Der Gebrauch des wasserdichten Gehäuses bei Temperaturen unter dem Gefrierpunkt ist nicht ratsam.
- Schneller Wechsel des wasserdichten Gehäuses zwischen hohen und niedrigen Temperaturen kann Kondensation (Wassertropfen) auf seinen Innenflächen verursachen. Falls dies geschieht, stellen Sie die Benutzung der Kamera sofort ein, da Kondensation zu Fehlfunktionen führen kann. Nehmen Sie die Kamera aus dem wasserdichten Gehäuse heraus, und wischen Sie Kondensationsfeuchtigkeit mit einem weichen, trockenen Tuch von Gehäuse und Kamera ab. Warten Sie, bis die letzten Feuchtigkeitsreste vollständig verdunstet sind, ehe Sie Kamera und Gehäuse wieder benutzen.

Bei Eindringen von Wasser

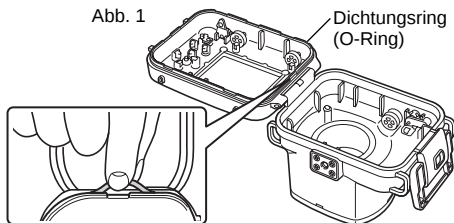
Hören Sie sofort auf zu fotografieren, wenn das wasserdichte Gehäuse undicht ist. Wenn die Kamera unter diesen Bedingungen verwendet wird, kann sich ein Brand entwickeln oder ein Stromschlag die Folge sein. Benutzen Sie die Kamera niemals unter diesen Umständen. Wischen Sie das Innere des wasserdichten Gehäuses und die Kamera gründlich trocken. Bitte wenden Sie sich an Ihren Canon-Kundendienst.

Dichtungsring

- Fremdkörper (Schmutz, Sand, Haare usw.) auf dem Dichtungsring können Eindringen von Wasser verursachen. Bereits das Einbringen einer einzigen Haarsträhne oder eines Sandkorns in den Dichtungsring kann zu Lecks führen.

- Entfernen Sie den Dichtungsring mit den Fingern vom wasserdichten Gehäuse, ohne ihn zu beschädigen (wie in Abb. 1 gezeigt). Drücken Sie nicht Ihre Fingernägel hinein, und verwenden Sie auch keine spitzen oder metallenen Gegenstände zum Entfernen.
- Ziehen Sie nicht am Dichtungsring. Wird der Dichtungsring gedehnt, wird das Gehäuse nicht einwandfrei abgedichtet, und es könnte Wasser eindringen.
- Achten Sie beim Einsetzen des Dichtungsringes darauf, dass die Abdichtung nicht verdreht oder gedehnt wird. Insbesondere ist darauf zu achten, dass der Dichtungsring über den gesamten Umfang flach in die Rille eingepasst ist. Vergewissern Sie sich vor der Verwendung, dass der Dichtungsring einwandfrei abdichtet.

Abb. 1



- Achten Sie darauf, nicht zu viel Silikon-Paste aufzutragen (ein Tropfen genügt). Ansonsten könnte ein Eindringen von Wasser die Folge sein.
- Benutzen Sie zum Auftragen der Paste weder Papier noch Stoff.
- Eine beschädigte oder rissige Dichtung kann Lecks verursachen. Bitte wenden Sie sich an Ihren Canon-Kundendienst.

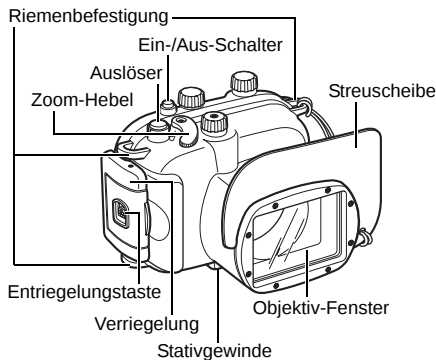
Damit das wasserdichte Gehäuse auch wasserdicht bleibt, ist es empfehlenswert, den Dichtungsring einmal pro Jahr auszuwechseln. Wenden Sie sich dazu an Ihren Canon-Kundendienst.

Pflege und Wartung

- Waschen Sie die Außenseite des wasserdichten Gehäuses nach dem Gebrauch so bald wie möglich mit reichlich klarem Wasser ab, z. B. mit Leitungswasser (maximal 30 °C). Besonders nach der Verwendung in Salzwasser ist mehrstündiges Einweichen des geschlossenen wasserdichten Gehäuses in Leitungswasser zu empfehlen, um Salzablagerungen zu entfernen. **Bitte prüfen Sie, dass Sie die Verriegelung richtig geschlossen haben, damit kein Wasser in das Gehäuse dringt.** Wischen Sie es nach dem Waschen mit einem weichen Tuch trocken. Um ein Zerkratzen des wasserdichten Gehäuses zu vermeiden, wischen Sie es nicht ab, wenn noch Staub oder Sand daran haftet. Wenn Salzreste zurückbleiben, können Metallteile zu rosten beginnen oder Tasten schwergängig werden. Wischen Sie das Innere des Gehäuses mit einem weichen, trockenen Tuch ab. Verwenden Sie kein Wasser.

Bezeichnung der Teile

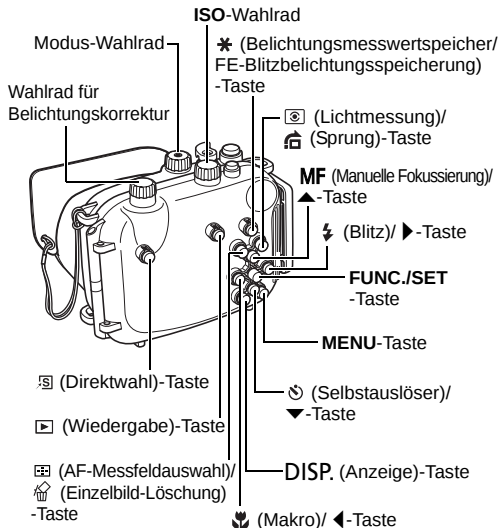
Vorderseite



Objektiv-Fenster

Da Schmutz oder Verunreinigungen auf dem Objektiv-Fenster auf Fotos zu sehen sind, halten Sie das Objektiv-Fenster sauber, indem Sie es behutsam mit einem trockenen, weichen Tuch abwischen.

Rückseite



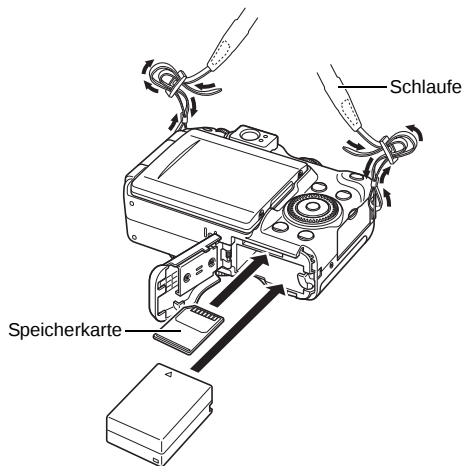
Vorbereitungen

Vorbereitung der Kamera

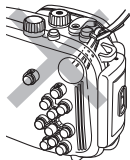
- 1** Vergewissern Sie sich, dass die Kamera ausgeschaltet ist; öffnen Sie den Speicherkarten-/Batterie-/Akkufachdeckel.
- 2** Legen Sie die Batterien/Akkus und die Speicherkarte ein.

- Informationen zum Einsetzen von Batterien/Akkus und Speicherkarten entnehmen Sie bitte dem *Kamera-Benutzerhandbuch*.
- Benutzen Sie Batterien/Akkus die ausreichend geladen sind.
- Stellen Sie sicher, dass Sie genug Speicherplatz auf Ihrer Speicherkarte haben, um Ihre Bilder aufzunehmen.

- 3** Entfernen Sie die Schlaufe der Kamera.



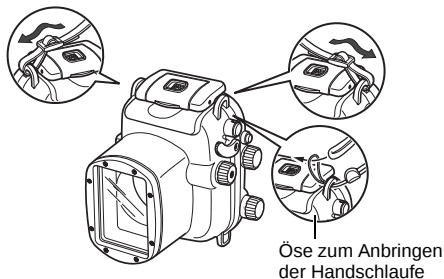
Wenn Sie bei angebrachter Schlaufe die Kamera in das wasserdichte Gehäuse einlegen, kann die Schlaufe im wasserdichten Gehäuse eingeklemmt werden und zu Undichtigkeiten führen.



Verwenden Sie die Schlaufe der Kamera nicht für das wasserdichte Gehäuse.

Vorbereitung des wasserdichten Gehäuses

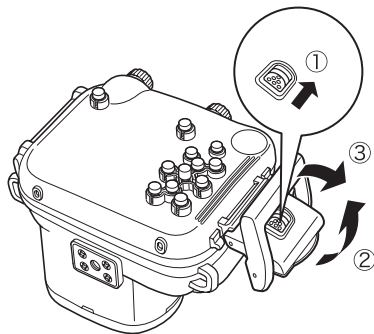
- 4** Befestigen Sie den Schulterriemen wie abgebildet an den Riemenbefestigungen, und stellen Sie ihn auf eine bequeme Länge ein.



Benutzen Sie den Schulterriemen, wenn Sie die Kamera am Strand tragen. Vor dem Einsatz unter Wasser nehmen Sie den Schulterriemen ab und bringen die Handschlaufe an. Es besteht die Gefahr, dass sich der Schulterriemen verfängt und zu Strangulation oder anderen Zwischenfällen führt.

5 Verschieben Sie die Entriegelungstaste wie gezeigt, und lösen Sie die Verriegelung, um den Deckel zu öffnen.

- Falls Sie eine handelsübliche Antibeschlagnlösung verwenden, tragen Sie sie mit einem weichen Tuch nur auf die Innenseite des Objektivfensters auf. Sollte die Antibeschlagnlösung versehentlich mit anderen Teilen in Kontakt kommen, wischen Sie sie sofort mit einem weichen, trockenen Tuch ab, da sonst Schäden verursacht werden können.



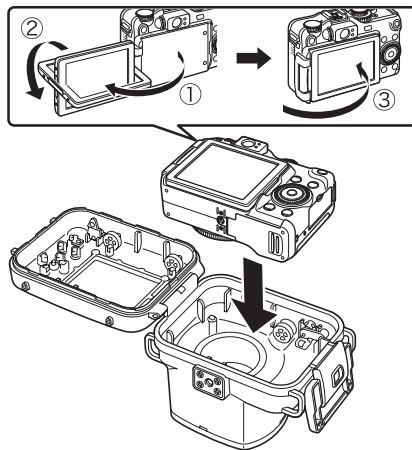
Tragen Sie eine dünne Schicht Silikon-Paste auf den gesamten Dichtungsring auf, bevor Sie das wasserdichte Gehäuse verwenden, um Verschleiß und Schäden zu vermeiden.

Vorsichtsmaßnahmen zur Verwendung des Dichtungsringes finden Sie unter „Dichtungsring“ auf Seite 6.

1. Entfernen Sie den Dichtungsring.
2. Wischen Sie mit einem Wattestäbchen Ablagerungen (z. B. Sand, Schmutz oder Haare) vom Dichtungsring und der Rille am wasserdichten Gehäuse ab.
3. Geben Sie etwas (einen Tropfen) Silikon-Paste auf Ihre Fingerspitze.
4. Überziehen Sie die gesamte Oberfläche des Dichtungsringes gleichmäßig mit der Paste. Achten Sie dabei darauf, die Oberfläche nicht zu zerkratzen.
5. Setzen Sie den Dichtungsring ordnungsgemäß in die Rille des Gehäuses ein.

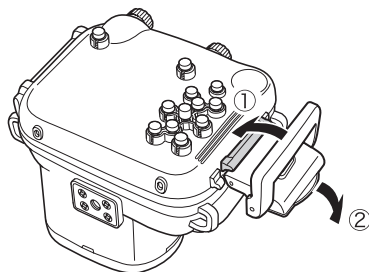
Einsetzen der Kamera

- 6 Öffnen Sie den LCD-Monitor und setzen Sie die Kamera wie abgebildet in das wasserdichte Gehäuse ein.**

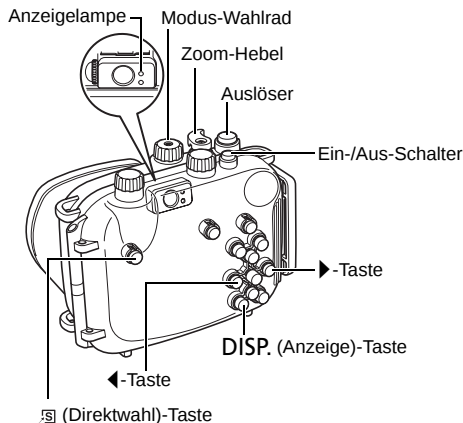


7 Schließen Sie das wasserdichte Gehäuse.

- Stellen Sie sicher, dass die Dichtung und ihre Kontaktflächen frei von Ablagerungen (z. B. Sand, Schmutz oder Haaren) sind. **Ein einziges Haar oder Sandkorn in der Dichtung kann Lecks verursachen.**
- Stellen Sie sicher, dass die Verriegelung richtig geschlossen ist.



Fotografieren



- 1 Betätigen Sie den Ein-/Aus-Schalter, um das Gerät einzuschalten.

2 Stellen Sie den gewünschten Modus mit dem Modus-Wahlrad ein.

3 Nehmen Sie die gewünschten Einstellungen vor.

- Drücken Sie die **DISP.**-Taste, um den LCD-Monitor einzuschalten.
- Den Zoom können Sie mit dem Zoom-Hebel einstellen.

Einstellen des Special Scene-Modus auf (Unterwasser)

Setzen Sie den Special Scene-Modus für Unterwasseraufnahmen auf  (Unterwasser). Dadurch wird der Weißabgleich auf Unterwasseraufnahmen eingestellt und die Blautönung zur realistischen Farbwiedergabe unterdrückt.

1. Setzen Sie das Modus-Wahlrad auf **SCN** (Special Scene-Modus).
2. Verwenden Sie nach dem Drücken der Taste  (Direktwahl) die Taste **◀** oder **▶** zum Auswählen von .

Aufnahmen bei Einstellung des Modus-Wahlrads auf **P, Tv, Av oder **M****

Sie können den Weißabgleich für die obigen Modi mithilfe des Menüs **FUNC.** auf  (Unterwasser) einstellen.

Bitte beachten Sie, dass Sie den Weißabgleich mit einem Tastendruck einstellen können, wenn Sie die Funktion ¹ oder ² (Benutzerdef. Weißabgleich 1 oder 2) der Taste  zuweisen.

Dies wird empfohlen, um den Weißabgleich den Aufnahmebedingungen anzupassen.

4 Wählen Sie den Bildausschnitt mit dem LCD-Monitor. Drücken Sie den Auslöser halb hinunter, und warten Sie, bis die obere Anzeigelampe grün oder orange leuchtet. Wenn sie leuchtet, drücken Sie den Auslöser ganz hinunter.

- Stellen Sie sicher, dass das Objektivfenster immer sauber ist.
 - Stellen Sie sicher, dass Sie beim Fotografieren Objektivfenster, Blitz oder Streuscheibe nicht mit den Fingern oder der Handschlaufe bedecken.
- Falls sich die Energiesparfunktion aktivieren und die Kamera ausschalten sollte, drücken Sie den Ein-/Aus-Schalter noch einmal.
 - Der Sucher kann zur Aufnahme nicht genutzt werden.
 - Selbst wenn Sie den Modus-Schalter auf  stellen, werden Sie nicht in der Lage sein, Bilder korrekt aufzunehmen, da sie den Sucher nicht verwenden können.

Verwendung des Einstellungs-Wahlrads

Das Einstellungs-Wahlrad wird in Verbindung mit dem wasserdichten Gehäuse ein wenig anders verwendet als bei der Kamera selbst.

1. Wenn Sie das Einstellungs-Wahlrad im Uhrzeigersinn drehen möchten, drücken Sie die Taste ► und gleichzeitig die Taste .
2. Wenn Sie das Einstellungs-Wahlrad gegen den Uhrzeigersinn drehen möchten, drücken Sie die Taste ◀ und gleichzeitig die Taste .

5 Wenn Sie keine weiteren Aufnahmen machen möchten, schalten Sie die Kamera aus.

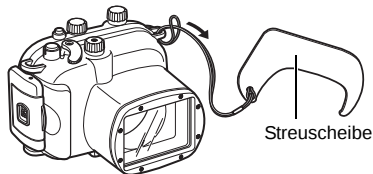
Handhabung des Blitzes

Für eine gleichmäßige Lichtverteilung des Blitzlichts verwenden Sie die Streuscheibe.

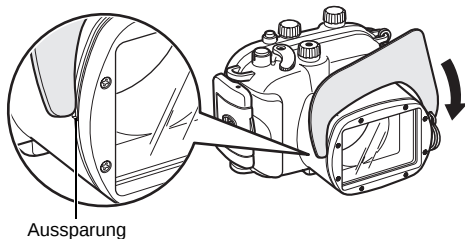
- Vermeiden Sie Kratzer auf der Oberfläche der Streuscheibe, da dies die gleichmäßige Streuung des Blitzlichts verringert.
- Im Blitzmodus können Teile des Bildes dunkel erscheinen. Machen Sie die Aufnahme in diesem Fall mit angebrachter Streuscheibe. Befindet sich das Motiv jedoch zu nah an der Kamera, ist die Streuscheibe unter Umständen weniger effektiv.

Anbringen der Streuscheibe

- 1** Ziehen Sie die Schnur wie abgebildet durch die Halterung.

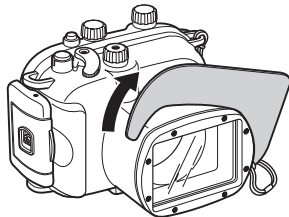


- 2** Fügen Sie die Kante der Streuscheibe wie abgebildet in die Aussparung ein.



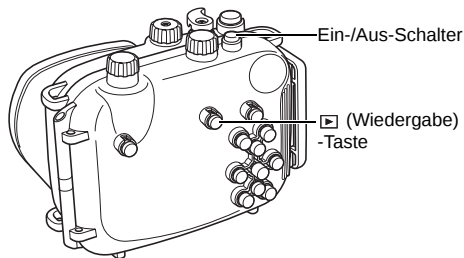
Abnehmen der Streuscheibe

Heben Sie die Streuscheibe wie abgebildet an, und entnehmen Sie diese.



Wiedergabe

- 1 Drücken Sie die Taste  (Wiedergabe).**



- 2 Wenn keine weitere Wiedergabe erfolgen soll, schalten Sie die Kamera aus.**

Denken Sie nach dem Gebrauch des wasserdichten Gehäuses daran, die Kamera aus diesem herauszunehmen. Wenn die Kamera in dem wasserdichten Gehäuse verbleibt und direkter Sonneneinstrahlung oder hohen Temperaturen ausgesetzt wird, kann sich ein Brand entwickeln oder das Gehäuse bersten.

Herausnehmen der Kamera

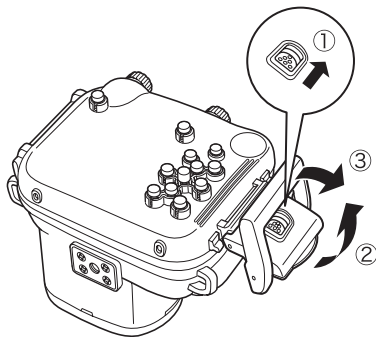
1 **Trocknen Sie das wasserdichte Gehäuse nach Gebrauch unbedingt gründlich ab.**

- Entfernen Sie Schmutz, Sand, Haare und andere Ablagerungen vom wasserdichten Gehäuse, und waschen Sie Salzurückstände mit klarem, fließenden Leitungswasser ab.

2 **Verschieben Sie die Entriegelungstaste wie gezeigt, und lösen Sie die Verriegelung, um den Deckel zu öffnen. Nehmen Sie die Kamera aus dem Gehäuse.**

- Achten Sie darauf, dass keine Wassertropfen von Ihrem Haar oder Körper auf die Kamera oder in das Innere des wasserdichten Gehäuses fallen, wenn das Gehäuse offen ist.

- Waschen Sie das Innere des wasserdichten Gehäuses nicht mit Wasser. Wischen Sie es mit einem weichen, trockenen Tuch ab.



Lagerung

- Lagern Sie das wasserdichte Gehäuse sorgsam und in geöffnetem Zustand; dies verhindert, dass sich der Dichtungsring verformt und die Wasserdichtigkeit beeinträchtigt wird.
- Schützen Sie die Dichtung während der Lagerung vor Staub oder Kratzern.
- Lagern Sie das wasserdichte Gehäuse nicht an heißen, kalten oder feuchten Orten, oder in der Nähe von chemischen Substanzen wie Naphthalin oder Insektiziden.

Technische Daten

Wasserdichtfähigkeit:

Entspricht dem IEC/
JISSchutzgrad „IPX8“
Für Einsatz bis zu einer
Tiefe von 40 m

Wasserabdichtung:

Dichtungsring, O-Ring
usw.

Hauptmaterialien: Polykarbonat, ABS,
klares Flachglas, EPDM
usw.

Betriebstemperatur der Kamera:

0 bis 40 °C

Abmessungen: 153,5 × 107,5 × 119,1 mm
(ohne vorstehende Teile)

Volumen: ca. 1150 cm³

Gewicht: ca. 575 g
(nur wasserdichtes
Gehäuse*)

Empfohlene Anzahl der gesondert erhältlichen Gewichte (WW-DC1) für das wasserdichte Gehäuse:

4 Gewichte

* Einschließlich Streuscheibe

- Alle hier angegebenen Daten basieren auf den Teststandards von Canon.
- Änderungen am Aussehen und an den Spezifikationen des Produkts können jederzeit ohne vorherige Benachrichtigung vorgenommen werden.

Aspectos legales

- A pesar de que no se han escatimado esfuerzos para garantizar que la información de esta guía sea precisa y completa, Canon Inc. no se hace responsable de los errores u omisiones que pudiera haber. Canon se reserva el derecho a cambiar en cualquier momento y sin previo aviso las especificaciones del hardware y software aquí descritos.
- Queda prohibida la reproducción, transmisión, transcripción, almacenamiento en sistemas de consulta y traducción a cualquier idioma, en cualquier forma y por cualquier medio, sin la previa autorización escrita de Canon.
- Canon no asume ninguna responsabilidad por los daños ocasionados por datos defectuosos o perdidos debido a una operación errónea o a un mal funcionamiento de la cámara, el software, las tarjetas de memoria, los ordenadores o los dispositivos periféricos.

Para utilizar correctamente la funda impermeable, lea atentamente este manual. Después de haber leído este manual, guárdelo en un lugar seguro para futuras referencias.

Introducción

- Muchas gracias por la adquisición de esta funda impermeable. Una vez instalada en la funda impermeable, usted podrá utilizar su cámara digital Canon bajo la lluvia, en la playa o en pistas de esquí. También podrá utilizarla bajo el agua hasta una profundidad de 40 metros (130 pies) y en ambientes húmedos y polvorientos.

- Antes de utilizar la funda impermeable, cerciórese de que funciona correctamente y de que no se infiltra agua. Cierre la funda impermeable antes de introducir la cámara y sumérjala en agua a una profundidad de unos 15 cm (5,9 pulgadas) durante unos tres minutos para comprobar que no le entra agua. Realice una comprobación similar después de haber instalado la cámara. Si se infiltra agua, póngase en contacto con el Centro de Atención al Cliente Canon.

- Canon Inc., sus sucursales y filiales y los distribuidores de la funda impermeable no se harán responsables de los daños debidos a datos corrompidos o perdidos por causa de una utilización errónea o al mal funcionamiento de la funda impermeable, de la cámara, de la batería o de la tarjeta de memoria que dé lugar a que no se graben las imágenes.
- Por favor, lea atentamente la *Guía del usuario de la cámara* proporcionada con su cámara.

Contenido del embalaje

La funda impermeable se envía con los accesorios indicados a continuación. Compruebe ahora si su paquete está completo. Si falta algo, póngase en contacto con su proveedor Canon.

- Funda impermeable
- Correa de cuello
- Correa de muñeca
- Placa de difusión
- Grasa de silicona para la junta hermética
- Guía del usuario (ésta)

Accesorio opcional

- Lastre para Funda impermeable Canon WW-DC1

Cuando utilice la funda impermeable para hacer fotos debajo del agua, el lastre evitará que la funda flote. Consulte las especificaciones principales (pág. 20) para obtener información sobre el número de lastres que se recomienda utilizar. Para obtener información sobre cómo colocarlos, consulte la guía del usuario de los lastres.

Precauciones de seguridad

Antes de utilizar la funda impermeable, lea detenidamente estas precauciones para poder usarla correctamente.

Las precauciones descritas a continuación son para permitir la utilización segura de la funda impermeable y para evitar peligros y daños tanto a usted mismo como a otras personas.

Antes de leer el resto de este manual, asegúrese de que ha comprendido bien los detalles de estas precauciones.

- Tras utilizar la funda impermeable, asegúrese de sacar la cámara. Si deja la funda impermeable con la cámara dentro en un lugar expuesto a la luz solar directa o a altas temperaturas, puede producirse un incendio o una explosión de la funda.
- No utilice la funda impermeable como flotador o chaleco salvavidas.

- No utilice la correa de cuello bajo el agua. Extraiga la correa de cuello y coloque la correa de muñeca antes de utilizarla debajo del agua. Existe el peligro de que la correa de cuello pudiese enredarse y causar la estrangulación u otros accidentes.
- No utilice la funda impermeable a profundidades superiores a 40 metros (130 pies). La funda podría funcionar mal, dañarse o provocar la infiltración de agua.
- No presione los botones ni la palanca de la funda impermeable con una fuerza innecesaria estando dentro del agua. Podría deformarla y provocar filtraciones.
- Cuando limpie la funda, no la rocíe con agua a presión. Esto podría causar la infiltración de agua.
- No desarme ni modifique la funda impermeable. Esto podría hacer que se infiltrase agua.

- No dañe la junta hermética, no raye sus superficies de contacto, ni permita que se acumule suciedad, arena, pelos, ni otros restos entre la junta hermética y la funda. Esto podría provocar filtraciones.
- No utilice la funda impermeable en agua con una temperatura superior a 40 °C (104 °F). El calor podría curvarla y provocar la infiltración de agua.
- No deje la funda protectora impermeable expuesta a la luz solar directa, dentro de un automóvil, ni cerca del sistema de calefacción. El calor podría curvarla y provocar la infiltración de agua. Cúbrala con una toalla, por ejemplo, si tiene que dejarla al sol.

Precauciones de manejo

- No deje caer ni lance la funda impermeable.
- Utilice solamente la grasa de silicona suministrada. La utilización de otros productos hermetizadores podría dañar la resistencia de la funda impermeable al agua. En caso de haber aplicado por error otro producto hermetizador, límpielo inmediatamente.
- Evite abrir o cerrar la funda impermeable cerca del agua. A la hora de instalar la cámara, o cambiar la tarjeta de memoria o la batería, elija un lugar con poca humedad alejado del aire salino del mar.
- Evite utilizar la funda impermeable durante mucho tiempo a gran temperatura.
- El ciclo de vida de las batería se reducirá a bajas temperaturas. Cuando vaya a utilizar la funda impermeable en un lugar muy frío, manténgala en una funda cuando no esté fotografiando. No se aconseja utilizar la funda impermeable en lugares con temperaturas inferiores al punto de congelación.

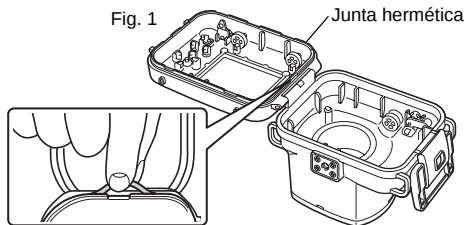
- El traslado rápido de la funda impermeable entre lugares con temperaturas altas y bajas puede causar la condensación de humedad (gotas de agua) en sus superficies internas. Si ocurre esto, deje de usar la cámara inmediatamente, ya que la condensación puede provocar un mal funcionamiento. Extraiga la cámara de la funda impermeable y limpie la condensación de la funda impermeable y de la cámara con un trapo suave y seco y espere hasta que la humedad se evapore completamente antes de volverla a utilizar.

Acerca de la infiltración de agua

Si hay infiltración de agua en la funda impermeable, deje inmediatamente de fotografiar. Si utiliza la cámara en este estado, puede causar un incendio o una descarga eléctrica. No la use en estas condiciones. Seque bien el interior de la funda impermeable y la cámara. Póngase en contacto con su Centro de atención al cliente Canon.

Junta hermética

- Las sustancias extrañas (p. ej. arena, suciedad o pelos) adheridas a la junta hermética pueden causar una infiltración de agua. Si quedase pillado un solo pelo o un diminuto grano de arena en la junta hermética, podría producirse una infiltración.
- Cuando retire la junta hermética de la funda impermeable, utilice los dedos para no dañarla (como se muestra en la Fig. 1). No clave las uñas en ella ni utilice objetos puntiagudos ni metálicos para retirarla.
- No tire de la junta hermética. El tirar de la junta hermética puede hacer que ésta se estire demasiado, lo cual podría ser la causa de que la funda no se cerrase debidamente y diera lugar a una infiltración.
- Mientras coloca la junta hermética, no la retuerza ni la empuje con fuerza. Tenga extremo cuidado al asegurar la junta hermética para que quede uniforme alrededor de la ranura de montaje. Verifique la junta hermética para cerciorarse de que funciona.



- Tenga cuidado de no aplicar demasiada grasa. La aplicación de grasa en exceso a la junta hermética puede causar una infiltración (una gota será suficiente).
- No utilice papel ni paños para aplicar la grasa a la junta.
- Una junta hermética rayada o rajada podría hacer que se infiltrase agua en la funda protectora impermeable. En caso de haberse dañado, póngase en contacto con su Centro de atención al cliente Canon.

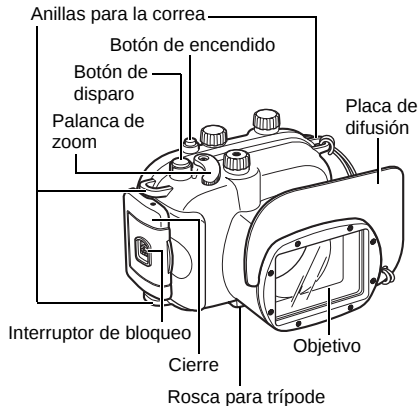
Para asegurar la hermeticidad de la funda impermeable, se recomienda reemplazar anualmente la junta hermética. Póngase en contacto con su Centro de atención al cliente Canon.

Cuidado y mantenimiento

- Lave el exterior de la funda impermeable con suficiente agua limpia y fresca (agua corriente a menos de 30 °C/ 86 °F, etc.), lo antes posible después de haberla usado. En especial, se aconseja sumergirla en agua dulce durante varias horas después de haberla utilizado en agua salada a fin de eliminar los depósitos de sal. **Compruebe si ha cerrado con seguridad el cierre para evitar que se infiltre agua en la funda.** Séquela con un trapo seco y suave después de lavarla. Para evitar rayar la funda impermeable, no la seque si hay restos de arena y tierra en ella. Las piezas metálicas pueden oxidarse o los botones pueden endurecerse si permanecen depósitos de sal en dichos lugares. Frote el interior de la funda con un paño suave y seco. No lo lave con agua.

Componentes

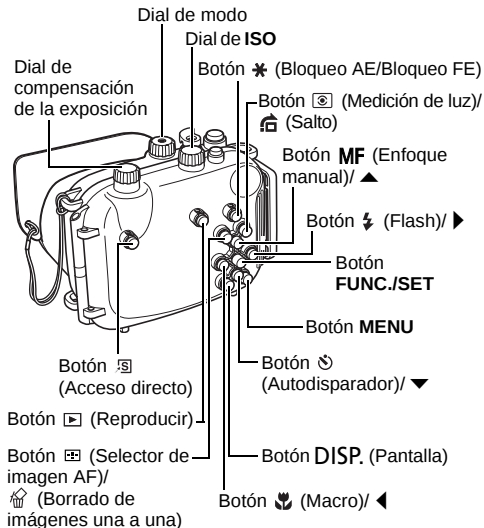
Parte frontal



Objetivo

Como la suciedad o las manchas del objetivo pueden aparecer en las fotografías, debe mantenerlo limpio frotándolo ligeramente con un paño seco y suave.

Parte posterior



Preparativos

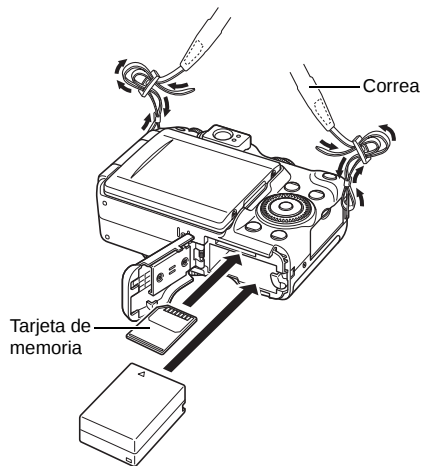
Preparación de la cámara

1 Compruebe que la cámara está apagada y abra la tapa de la batería o la ranura de la tarjeta de memoria.

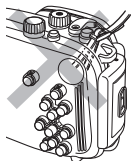
2 Inserte la batería y la tarjeta de memoria.

- Consulte la *Guía del usuario de la cámara* para obtener información sobre los métodos de instalación de la batería y de la tarjeta de memoria.
- Utilice una batería adecuadamente cargada.
- Compruebe si hay suficiente espacio de almacenamiento en su tarjeta de memoria para grabar sus imágenes.

3 Quite la correa de la cámara.



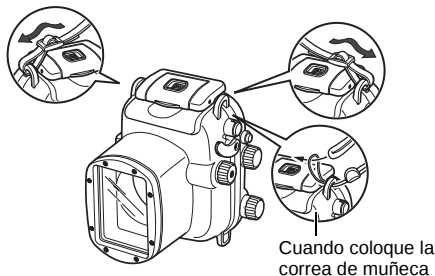
Si introduce la cámara mientras la correa está colocada, podría quedar pillada en la junta hermética de la funda impermeable y causar la infiltración de agua.



No utilice la correa de la cámara como correa para la funda impermeable.

Preparación de la funda impermeable

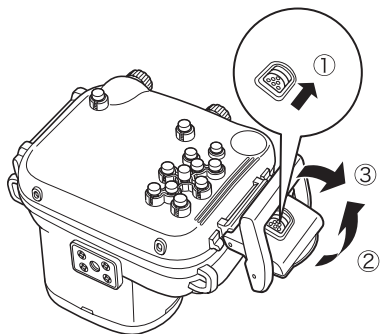
4 Fije la correa de cuello a las anillas para la correa, tal y como se muestra, y ajústela a una longitud cómoda.



Utilice la correa de cuello cuando lleve la cámara en la playa. Extraiga la correa de cuello y coloque la correa de muñeca antes de utilizarla debajo del agua. Existe el peligro de que la correa de cuello pudiera enredarse y causar una estrangulación u otro accidente.

5 Deslice el interruptor de bloqueo como se muestra y suelte el cierre para abrir la cubierta trasera.

- Cuando utilice productos contra condensación que se pueden adquirir en el mercado, la solución contra condensación se deberá aplicar sólo a la superficie interior del objetivo usando un paño suave. Si la solución contra condensación entra en contacto con cualquier superficie que no sea la cara interior del objetivo, límpiela de inmediato con un paño suave y seco debido a que podría dar lugar a un deterioro de la funda impermeable.



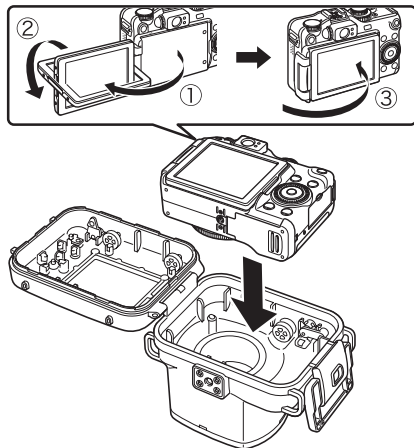
Aplique una fina capa de grasa a toda la junta antes de utilizar la funda impermeable a fin de evitar la abrasión y el deterioro.

En cuanto a las precauciones de manejo de la junta hermética, vea el apartado “Junta hermética” de la página 6.

1. Retire la junta hermética.
2. Usando un bastoncillo de algodón limpie toda sustancia extraña (p. ej., suciedad, arena o pelos) que pudiera haber en la junta hermética y en la ranura de montaje de la junta de la funda impermeable.
3. Aplique una pequeña cantidad (una gota) de grasa en la punta del dedo.
4. Recubra uniformemente toda la superficie de la junta hermética, teniendo cuidado de no rayar la superficie.
5. Vuelva a colocar la junta hermética en la ranura de montaje de la junta de la funda impermeable.

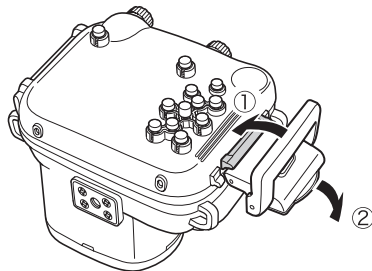
Instalación de la cámara

- 6** Abra la pantalla LCD e introduzca la cámara en la funda impermeable tal como se muestra.

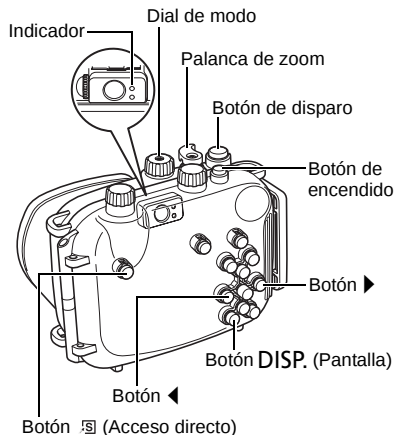


7 Cierre la funda impermeable.

- Cerciórese de que la junta hermética y sus superficies de contacto estén libres de restos (p. ej., arena, suciedad o pelos). **Si quedase pillado un solo pelo o un diminuto grano de arena en la junta hermética, podría producirse una infiltración.**
- Cerciórese de que el cierre haya quedado perfectamente cerrado.



Fotografiado



- 1 Pulse el botón de encendido para conectar la alimentación.

2 Ajuste el conmutador de modo al modo deseado.

3 Realice los ajustes requeridos.

- Presione el botón **DISP.** para activar la pantalla LCD.
- Puede ajustar el zoom con la palanca de zoom.

Ajuste del modo escena especial en (Bajo el agua)

Ajuste el Modo de escena especial en  cuando realice fotografías bajo el agua. Al hacer esto, se ajustará el balance de blancos bajo el agua y se eliminarán los tonos azules para permitir un color fotográfico más natural.

1. Ajuste el dial de modo en **SCN** (modo de escena especial).
2. Mientras presiona el botón  (Acceso directo), use los botones  o  para seleccionar .

Fotografiado con el dial de modo ajustado a , **P**, **Tv**, **Av** o **M**

Usted podrá ajustar el balance de blancos a  (Bajo el agua) utilizando el menú FUNC. para los modos indicados arriba.

Tenga en cuenta que podrá ajustar manualmente el balance de blancos presionando un solo botón si asigna la función  o  (balance personalizado de blancos 1 o 2) al botón .

Se recomienda hacer esto para ajustar el balance de blancos a las condiciones de grabación.

4 Utilice la pantalla LCD para encuadrar el motivo. Presione el botón de disparo hasta la mitad de su recorrido y espere hasta que el indicador superior se encienda en verde o anaranjado. Una vez encendido, presione completamente el botón de disparo.

- Cerciórese de que el objetivo esté siempre limpio.
- Cerciórese de que sus dedos y la correa de muñeca no estén obstruyendo la ventana del objetivo, el flash, ni la placa de difusión cuando fotografíe.

- Si la función de ahorro de energía activa y apaga la energía, presione de nuevo el botón de encendido.
- No se pueden realizar fotografías utilizando el visor.
- Aunque ajuste el conmutador de modo en , no podrá hacer fotos correctamente porque no puede utilizar el buscador.

Utilización del dial de control

La utilización del dial de control con la funda impermeable es un tanto diferente a la de la propia cámara.

1. Para girar el dial de control en el sentido de las agujas del reloj, presione el botón  mientras presiona también el botón .
2. Para girar el dial de control en el sentido contrario a las agujas del reloj, presione el botón  mientras también presiona el botón .

5 Cuando haya terminado de utilizar la cámara, apáguela.

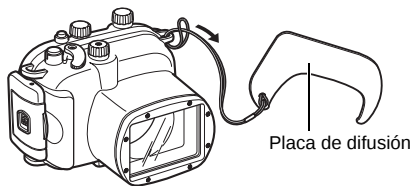
Utilización del flash

Para distribuir uniformemente la luz procedente del flash, fíjela la placa de difusión.

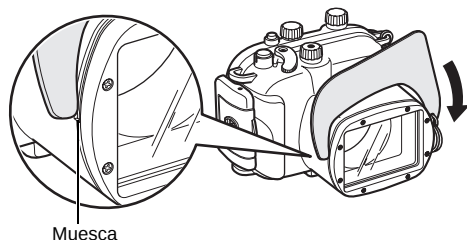
- No raye la superficie de la placa de difusión, ya que esto podría evitar que la luz se difundiese adecuadamente.
- Puede que aparezca una sombra en la parte inferior derecha de las imágenes al fotografiar con flash. En este caso, instale la placa de difusión e inténtelo nuevamente.

Fijación de la placa de difusión

- 1** Enhebre el cordón a través de la anilla tal como se muestra.

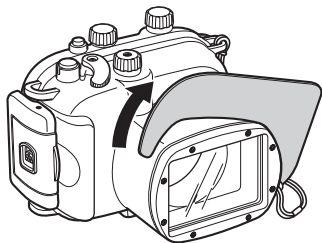


- 2** Inserte el borde de la placa de difusión en la muesca de la forma que se muestra.



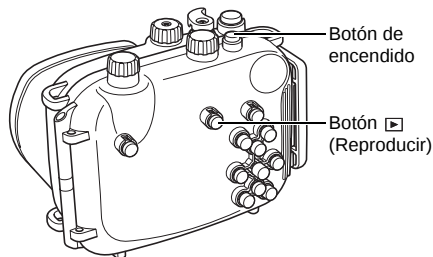
Extracción de la placa de difusión

Levante y extraiga la placa de difusión de la forma que se muestra.



Reproducción

1 Presione el botón  (Reproducir).



2 Cuando haya terminado de utilizar la cámara, apáguela.

Después de usar la funda impermeable, retire la cámara. Si deja la funda impermeable con la cámara dentro expuesta al sol o en un sitio con alta temperatura, puede causar un incendio o hacer que la funda reviente.

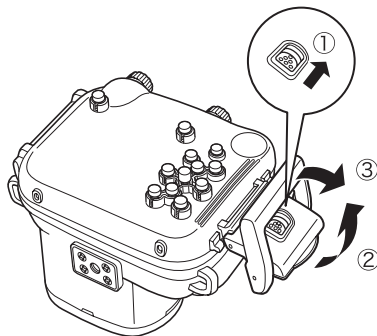
Extracción de la cámara

1 Después de haber utilizado la cámara, cerciórese de secar completamente el agua de la funda impermeable.

- Elimine la suciedad, los pelos y demás partículas de la funda impermeable y lávela con agua corriente limpia para eliminar los depósitos de sal.

2 Deslice el interruptor de bloqueo como se muestra y suelte el cierre para abrir la cubierta trasera. Extraiga la cámara de la funda protectora impermeable.

- Tenga cuidado de que en la cámara o en el interior de la funda impermeable no caigan gotas de agua de su pelo o cuerpo cuando la funda esté abierta.
- No lave el interior de la funda impermeable con agua. Frótela con un paño suave y seco.



Almacenamiento

- Guarde la funda impermeable con cuidado, dejándola abierta para impedir que la junta hermética se deforme y para mantener el efecto impermeable.
- Proteja la junta hermética contra el polvo y los arañazos durante el almacenamiento.
- No guarde la funda impermeable en un lugar ni cálido, ni frío, ni húmedo ni cerca de sustancias tales como naftalina o insecticidas.

Especificaciones

Capacidad de impermeabilidad:

Cumple la evaluación de protección de IEC/JIS equivalente a "IPX8"
Para utilizarse a una profundidad de 40 m (130 pies)

Impermeabilidad: Junta hermética, junta tórica, etc.

Materiales principales:

Polycarbonato, ABS, cristal plano claro, EPDM, etc.

Temperatura de utilización de la cámara:

De 0 a 40 °C (De 32 a 104 °F)

Dimensiones: 153,5 × 107,5 × 119,1 mm
(6,04 × 4,23 × 4,69 pulgadas)
(excluyendo las partes salientes)

Volumen: Aprox. 1150 cm³
(38,9 onzas fluidas (EE.UU.))

Peso: Aprox. 575 g (20,3 onzas)
(Funda impermeable solamente*)

Número de lastres para la funda impermeable vendidos aparte (WW-DC1) recomendados para el montaje:

4 lastres

* Incluyendo la placa de difusión

- Todos los datos indicados se basan en los niveles de prueba de Canon.
- Las especificaciones y la apariencia del producto están sujetos a cambio sin previo aviso.

Clause de non-responsabilité

- Canon a apporté tout le soin requis afin de garantir l'exactitude et l'exhaustivité des informations contenues dans ce manuel, mais ne peut être tenue responsable des éventuelles erreurs ou omissions. Canon se réserve le droit de modifier à tout moment les caractéristiques du matériel et des logiciels décrits, sans avis préalable.
- Ce manuel ne peut être reproduit, transmis, transcrit, enregistré sur un système de stockage ou traduit dans une langue quelconque, sous quelque forme et par quelque moyen que ce soit, sans l'autorisation écrite préalable de Canon.
- Canon n'offre aucune garantie pour les dommages résultant de la perte ou de l'altération des données par suite d'une erreur ou d'un dysfonctionnement de l'appareil, du logiciel, des cartes mémoire, des ordinateurs personnels ou des périphériques.

Veillez lire attentivement ce manuel pour utiliser correctement votre boîtier étanche.

Une fois que vous l'avez lu, conservez ce manuel dans un endroit sûr afin de pouvoir vous y référer ultérieurement.

Introduction

- Nous vous remercions d'avoir acheté ce boîtier étanche. Une fois votre appareil photo numérique Canon installé dans son boîtier étanche, vous pouvez l'utiliser sous la pluie, aux sports d'hiver ou à la plage. Vous pourrez même l'utiliser sous l'eau jusqu'à 40 mètres (130 pieds) de profondeur et dans un environnement humide et/ou poussiéreux.

- Avant de l'utiliser, assurez-vous que le boîtier est parfaitement étanche, sans la moindre infiltration d'eau. Pour cette vérification, fermez le boîtier étanche avant d'y installer l'appareil photo et tenez-le sous l'eau à une profondeur de 15 cm (5,9 pouces) pendant environ trois minutes. Réalisez une vérification similaire après avoir mis en place l'appareil photo. En cas d'infiltration, contactez le service clientèle Canon.

- Canon Inc., ses filiales et succursales, ainsi que les distributeurs du boîtier étanche déclinent toute responsabilité pour tout dommage, direct ou indirect, découlant de données altérées ou perdues du fait d'une mauvaise utilisation ou d'un mauvais fonctionnement du boîtier étanche, de l'appareil photo, des batteries ou de la carte mémoire et donnant lieu à la perte d'une image à enregistrer.
- Veuillez également lire attentivement le *Guide d'utilisation de l'appareil photo* fourni avec ce dernier.

Contenu de l'emballage

Le boîtier étanche est fourni avec les articles suivants. Vérifiez qu'ils figurent dans l'emballage et contactez votre revendeur Canon si l'un d'entre eux devait manquer.

- Boîtier étanche
- Collier
- Dragonne
- Plaque de diffusion
- Graisse au silicone pour le joint d'étanchéité
- Guide d'utilisation (ce manuel)

Vendu séparément

- Poids du boîtier étanche Canon WW-DC1

Les poids empêchent le boîtier étanche de flotter lorsque vous prenez des photos sous l'eau. Consultez la fiche technique (p. 20) pour connaître le nombre de poids recommandés. Pour en savoir plus sur les méthodes de fixation, consultez le guide d'utilisation des poids.

Précautions de sécurité

Avant d'utiliser le boîtier étanche, lisez attentivement ces précautions afin d'en faire un usage correct.

Les précautions ci-dessous sont destinées à garantir une utilisation sûre du boîtier étanche et à éviter tout danger ou dégât pour vous-même ou des tiers. Comprenez bien le sens de ces précautions avant d'entamer la lecture de ce manuel.

- Après avoir utilisé le boîtier étanche, assurez-vous de bien retirer l'appareil photo. Si vous laissez le boîtier étanche contenant l'appareil photo sous la lumière directe du soleil ou dans un endroit à haute température, cela pourrait entraîner un incendie ou le boîtier pourrait éclater.
- N'utilisez pas le boîtier étanche comme un dispositif flottant (bouée de sauvetage).
- N'utilisez pas le collier sous l'eau. Enlevez le collier et fixez la dragonne avant d'utiliser l'appareil sous l'eau. Le collier risquerait de s'emmêler et de causer un étranglement ou un autre accident.

- N'utilisez pas ce boîtier étanche à une profondeur supérieure à 40 mètres (130 pieds). Le boîtier pourrait ne pas fonctionner correctement, être endommagé ou subir des infiltrations d'eau.
- N'appuyez pas trop fort sur les boutons et le levier du boîtier étanche quand il est immergé. Cela pourrait déformer le boîtier et provoquer des infiltrations.
- Pour nettoyer le boîtier, ne l'aspergez pas d'eau sous pression. Cela pourrait provoquer des infiltrations d'eau.
- Ne démontez pas et ne modifiez pas le boîtier étanche. Cela pourrait lui faire perdre son étanchéité.
- N'endommagez pas le joint d'étanchéité, ne rayez pas ses surfaces de contact et ne laissez aucune accumulation de saletés (cheveux, sable, etc.) entre le joint et le boîtier, car cela risquerait de provoquer des infiltrations.
- N'utilisez pas le boîtier étanche dans l'eau à une température supérieure à 40 °C (104 °F). La chaleur pourrait déformer le boîtier et provoquer des infiltrations d'eau.

- Ne laissez pas le boîtier étanche en plein soleil, dans une voiture par temps chaud ou près d'un appareil de chauffage car le boîtier pourrait se gondoler, entraînant une perte d'étanchéité. Si vous devez laisser le boîtier au soleil, prenez soin de le recouvrir, par exemple, d'une serviette.

Précautions d'emploi

- Ne faites pas tomber ni ne jetez le boîtier étanche.
- Utilisez uniquement la graisse au silicone fournie, car l'emploi d'autres produits d'étanchéité pourrait amoindrir la résistance du boîtier. Si un autre produit d'étanchéité devait être appliqué par erreur, essuyez-le immédiatement.
- Évitez d'ouvrir et de fermer le boîtier près de l'eau. Pour installer l'appareil photo ou changer la carte mémoire ou les batteries, choisissez un endroit peu humide et éloigné des embruns.
- Évitez d'utiliser le boîtier pendant une longue période par température élevée.

- La durée de vie des batteries diminue par temps froid. Si vous utilisez le boîtier dans un endroit très froid, protégez-le en le plaçant dans un sac tant que vous ne vous en servez pas. Il est déconseillé d'utiliser ce boîtier étanche par une température inférieure à zéro degré.
- Le passage trop rapide du boîtier étanche du chaud au froid peut entraîner la formation de condensation (gouttelettes d'eau) sur ses parois intérieures et ainsi altérer son efficacité. Cessez immédiatement d'utiliser l'appareil photo si vous décelez de la condensation. Retirez l'appareil du boîtier étanche et essuyez la condensation du boîtier étanche et de l'appareil avec un chiffon doux et sec, et attendez que l'humidité soit complètement évaporée avant d'utiliser à nouveau l'appareil photo.

À propos des infiltrations d'eau

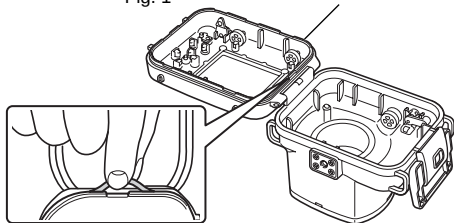
Si vous constatez une infiltration d'eau dans le boîtier étanche, arrêtez immédiatement la prise de vue. L'utilisation de l'appareil photo dans ces conditions présente un risque d'incendie ou de décharge électrique. Veillez à respecter scrupuleusement cette précaution d'utilisation. Essayez convenablement l'intérieur du boîtier étanche ainsi que l'appareil photo numérique et contactez le service clientèle Canon.

Joint d'étanchéité

- Des corps étrangers amassés sur le joint d'étanchéité (grains de sable, poussières, cheveux) peuvent être à l'origine d'infiltrations d'eau. Un minuscule grain de sable ou un cheveu sur le joint peut entraîner des infiltrations d'eau.
- Pour retirer le joint du boîtier étanche, utilisez vos doigts de façon à ne pas l'endommager (comme illustré sur la Fig. 1). N'utilisez pas vos ongles, des objets pointus ou métalliques pour retirer le joint.
- Ne tirez pas sur le joint d'étanchéité. Ceci risquerait de l'étirer, empêchant le boîtier de fermer correctement et provoquant ainsi des infiltrations d'eau.
- Lors de l'installation du joint d'étanchéité, ne le tordez pas et ne l'étirez pas. Veillez à ce que le joint d'étanchéité soit placé à l'horizontale sur toute la rainure de montage et assurez-vous qu'il préserve parfaitement l'étanchéité.

Fig. 1

Joint d'étanchéité



- Faites attention de ne pas appliquer trop de graisse. L'application d'une trop grande quantité de graisse peut provoquer des infiltrations d'eau (une seule goutte est suffisante).
- N'utilisez pas de papier ou de tissu pour appliquer la graisse sur le joint.
- Un joint d'étanchéité endommagé ou fissuré peut provoquer une infiltration d'eau dans le boîtier. Contactez le service clientèle Canon.

Pour que le boîtier reste toujours bien étanche, il est recommandé de remplacer le joint une fois par an. Pour cela, contactez le service clientèle Canon.

Entretien du boîtier

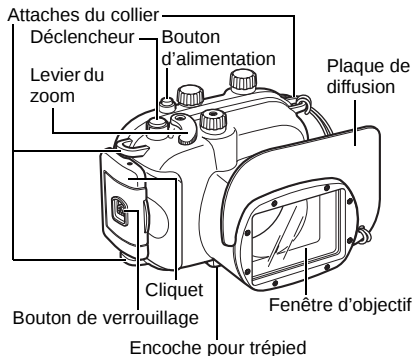
- Lavez abondamment l'extérieur du boîtier étanche avec de l'eau propre (eau du robinet à moins de 30 °C/86 °F, etc.) dès que vous cessez de l'utiliser. Nous vous conseillons en particulier de le plonger dans de l'eau douce pendant plusieurs heures après son utilisation dans l'eau salée pour retirer tous les dépôts.

Assurez-vous que le cliquet est correctement serré afin d'éviter toute infiltration d'eau dans le boîtier.

Essayez le boîtier étanche avec un chiffon doux et sec après l'avoir lavé. Pour ne pas le rayer, vérifiez qu'aucun grain de sable ni aucune saleté n'y est resté collé avant de l'essuyer. Les parties métalliques peuvent rouiller ou les boutons peuvent devenir durs à pousser s'il reste des dépôts de sel. Essayez aussi l'intérieur du boîtier avec un chiffon doux et sec. Ne le lavez pas à l'eau.

Désignations

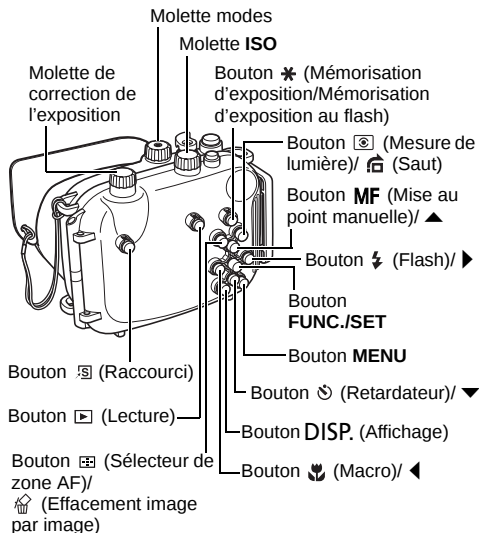
Face avant



Fenêtre d'objectif

Étant donné que toute poussière ou saleté présente sur la fenêtre de l'objectif peut apparaître sur les photographies, veillez à la garder propre en l'essuyant délicatement avec un chiffon doux et sec.

Face arrière

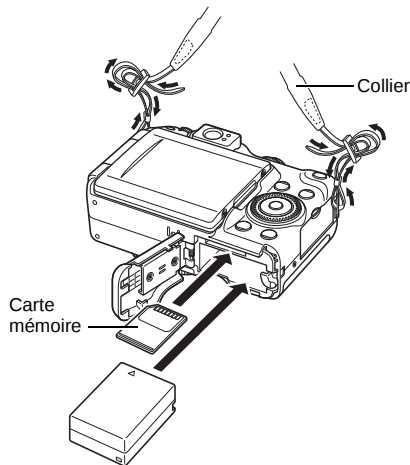


Préparatifs

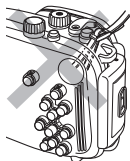
Préparation de l'appareil photo

- 1** Vérifiez que l'appareil photo est éteint et ouvrez le couvercle du logement de la carte mémoire/ batterie.
- 2** Insérez la batterie et la carte mémoire.
 - Reportez-vous également au *Guide d'utilisation de l'appareil photo* pour en savoir plus sur l'installation de la batterie et de la carte mémoire.
 - Utilisez une batterie qui est correctement chargée.
 - Assurez-vous d'avoir assez de place disponible sur la carte mémoire pour enregistrer vos images.

- 3** Retirez le collier de l'appareil photo.



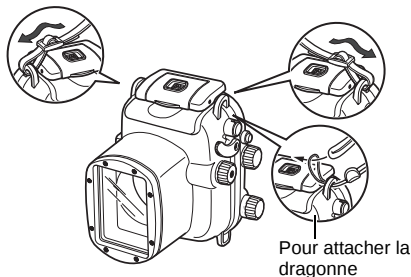
Si vous insérez l'appareil photo alors que le collier est attaché, il risque de se coincer dans le joint d'étanchéité lors de la fermeture du boîtier étanche et d'entraîner des infiltrations d'eau.



N'utilisez pas le collier de l'appareil photo comme collier pour le boîtier étanche.

Préparation du boîtier étanche

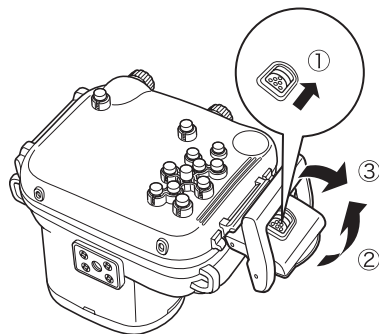
4 Fixez le collier sur les attaches, comme indiqué sur le schéma, et ajustez-le à la longueur adéquate.



Utilisez le collier quand vous portez l'appareil à la plage. Enlevez le collier et fixez la dragonne avant d'utiliser l'appareil sous l'eau. Le collier pourrait s'enchevêtrer et donner ainsi lieu à un risque d'étranglement ou autre accident.

5 Faites glisser le bouton de verrouillage comme indiqué sur l'illustration et libérez le cliquet pour ouvrir le couvercle arrière.

- Lors de l'utilisation de produits anti-buée en vente dans le commerce, la solution anti-buée ne doit être appliquée que sur la surface intérieure de la fenêtre de l'objectif à l'aide d'un chiffon doux. Si la solution anti-buée se trouve en contact avec toute surface autre que l'intérieur de la fenêtre de l'objectif, essuyez-la immédiatement avec un chiffon doux et sec pour éviter d'endommager le boîtier étanche.



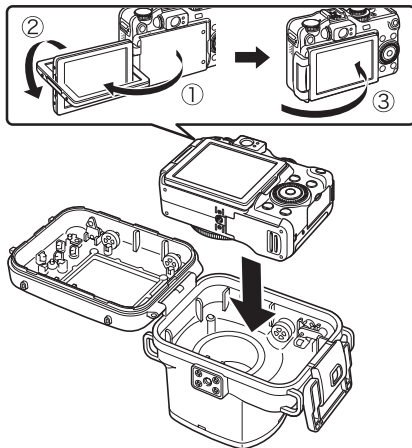
Pour éviter l'usure du joint d'étanchéité, enduisez toute la surface du joint d'une fine couche de graisse.

Pour de plus amples informations concernant les précautions de manipulation du joint d'étanchéité, reportez-vous à la section « Joint d'étanchéité » de la page 6.

1. Retirez le joint d'étanchéité.
2. À l'aide d'un coton-tige, enlevez toute saleté (par exemple, des grains de sable, de la saleté ou des cheveux) qui serait présente sur le joint d'étanchéité et sur la rainure de montage du joint dans le boîtier étanche.
3. Appliquez une goutte de graisse sur le doigt.
4. Enduisez uniformément toute la surface du joint d'étanchéité en veillant à ne pas la rayer.
5. Réinsérez le joint d'étanchéité dans la rainure de montage du joint du boîtier étanche.

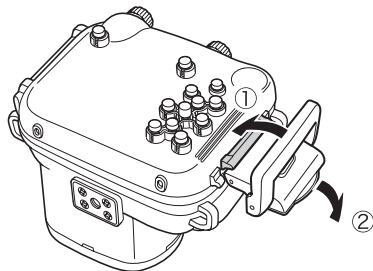
Mise en place de l'appareil photo

- 6** Ouvrez l'écran LCD et insérez l'appareil photo dans le boîtier étanche, comme indiqué.

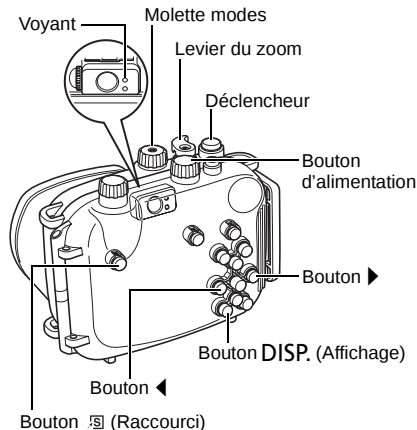


7 Refermez le boîtier étanche.

- Assurez-vous que le joint d'étanchéité et ses surfaces de contact ne sont pas souillés par des saletés (grains de sable, poussières, cheveux). **Un minuscule grain de sable ou un cheveu sur le joint peut entraîner des infiltrations d'eau.**
- Assurez-vous que le cliquet est fermé correctement.



Prise de vue



- Appuyez sur le bouton d'alimentation pour mettre l'appareil photo sous tension.

2 Positionnez la molette de sélection des modes jusqu'au mode souhaité.

3 Faites les réglages nécessaires.

- Appuyez sur le bouton **DISP.** pour activer l'écran LCD.
- Vous pouvez ajuster le zoom à l'aide du levier de zoom.

Réglage du mode de scène spéciale sur (Sous-marin)

Réglez le mode de scène spéciale sur  pour des photos sous-marines. Cela effectue la balance des blancs sous-marine et enlève les teintes de bleu pour permettre une couleur naturelle de la photo.

1. Positionnez la molette modes sur **SCN** (mode de scène spéciale).
2. En appuyant sur le bouton  (Raccourci), utilisez le bouton **◀** ou **▶** pour sélectionner .

Prise de vue quand la molette modes est réglée sur , **P, **Tv**, **Av** ou **M****

Vous pouvez régler la balance des blancs sur  (Sous-marin) en utilisant le menu FUNC. pour les modes ci-dessus.

Veuillez noter que vous pouvez régler la balance des blancs manuellement en appuyant sur un seul bouton si vous programmez la fonction  ou  (balance des blancs personnalisée 1 ou 2) sur le bouton .

Cette procédure est conseillée pour pouvoir ajuster la balance des blancs aux conditions de prise de vue.

4 Utilisez l'écran LCD pour composer la prise de vue. Appuyez à mi-course sur le déclencheur et attendez que le voyant supérieur devienne vert ou orange. Lorsqu'il est allumé, appuyez à fond sur le déclencheur.

- Veillez toujours à la propreté de la fenêtre d'objectif.
- Veillez à ce que vos doigts et la dragonne ne couvrent pas la fenêtre d'objectif, le flash ou la plaque de diffusion pendant la prise de vue.

- Si la fonction automatique d'économie d'énergie s'active et coupe l'alimentation, appuyez à nouveau sur le bouton d'alimentation.
- Vous ne pouvez pas prendre de photo en utilisant le viseur.
- Même si vous placez la molette de sélection des modes sur , vous ne serez pas en mesure de prendre correctement des photos puisque vous ne pouvez pas utiliser le viseur.

Utilisation de la molette de sélection

L'utilisation de la molette de sélection avec le boîtier étanche diffère légèrement de celle avec l'appareil photo seul.

1. Lorsque vous voulez tourner la molette de sélection dans le sens des aiguilles d'une montre, appuyez sur le bouton  en même temps que sur le bouton .
2. Lorsque vous voulez tourner la molette de sélection dans le sens contraire des aiguilles d'une montre, appuyez sur le bouton  en même temps que sur le bouton .

5 Lorsque vous avez fini d'utiliser l'appareil, éteignez-le.

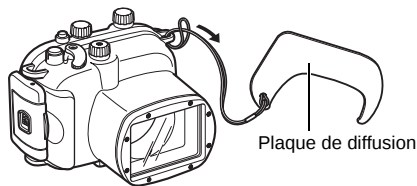
Utilisation du flash

Pour une répartition uniforme de la lumière, fixez la plaque de diffusion.

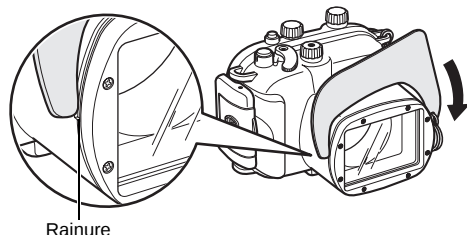
- Ne rayez pas la surface de la plaque de diffusion car cela pourrait empêcher le flash d'être diffusé correctement.
- Lors de la prise de vue au flash, certaines parties de l'image peuvent être sombres. N'oubliez donc pas de fixer la plaque de diffusion avant de prendre la photo. Cependant, si le sujet est trop proche de l'appareil photo, la plaque peut s'avérer moins efficace.

Fixation de la plaque de diffusion

- 1** Attachez le cordon à travers l'attache de la façon indiquée.

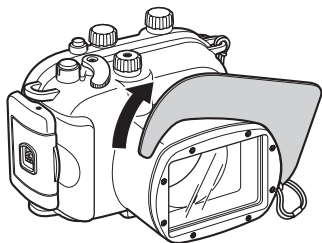


- 2** Insérez le bord de la plaque de diffusion dans la rainure prévue à cet effet, comme indiqué.



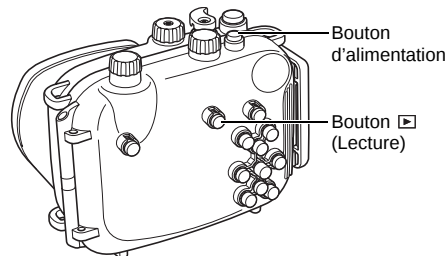
Retrait de la plaque de diffusion

Soulevez et retirez la plaque de diffusion comme indiqué.



Lecture

1 Appuyez sur le bouton ► (Lecture).



2 Lorsque vous avez fini d'utiliser l'appareil, éteignez-le.

Lorsque vous n'utilisez plus le boîtier étanche, veillez à en sortir l'appareil photo. Si vous laissez l'appareil photo dans le boîtier étanche et que vous laissez celui-ci en plein soleil ou à proximité d'une forte source de chaleur, vous risquez de provoquer un incendie ou une explosion.

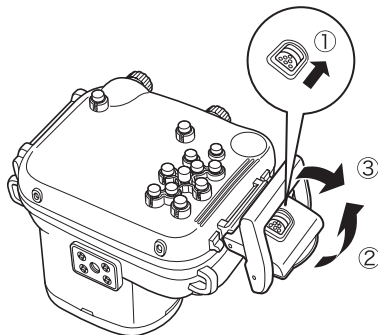
Retrait de l'appareil photo

1 Prenez soin d'enlever toute trace d'eau du boîtier étanche.

- Enlevez la poussière, les cheveux et autres particules du boîtier étanche et lavez-le à l'eau courante pour éliminer les dépôts de sel.

2 Faites glisser le bouton de verrouillage comme indiqué sur l'illustration et libérez le cliquet pour ouvrir le couvercle arrière. Retirez l'appareil photo du boîtier.

- Faites attention de ne pas laisser pénétrer des gouttes d'eau de vos cheveux et de votre corps à l'intérieur du boîtier étanche quand celui-ci est ouvert.
- Ne lavez pas l'intérieur du boîtier avec de l'eau, mais frottez-le avec un chiffon doux et sec.



Stockage

- Rangez soigneusement le boîtier étanche ouvert pour éviter de déformer le joint d'étanchéité et préserver ses performances d'étanchéité.
- Protégez le joint d'étanchéité contre la poussière et les éraflures pendant les périodes d'inactivité.
- Ne rangez pas le boîtier étanche dans un endroit chaud, froid ou humide, ou à proximité de substances comme de la naphtaline ou des insecticides.

Fiche technique

Capacité d'étanchéité à l'eau :

Conforme à la protection IEC/JIS de classe équivalente à « IPX8 ». Pour utiliser à une profondeur de 40 mètres (130 pieds) maximum.

Étanchéité : Dispositif d'étanchéité, joint torique, etc.

Matériaux : Polycarbonate, ABS, plaque de verre transparente, EPDM, etc.

Température d'utilisation de l'appareil photo :
0 à 40 °C (32 à 104 °F)

Dimensions extérieures :

153,5 × 107,5 × 119,1 mm
(6,04 × 4,23 × 4,69 pouces)
(hors parties saillantes)

Volume : Env. 1150 cm³
(38,9 oz. liq. (États-Unis))

Poids : Env. 575 g (20,3 onces)
(Boîtier étanche uniquement*)

Nombre de poids vendus séparément pour ce boîtier étanche (WW-DC1) et recommandés pour le montage :

4 poids.

* Plaque de diffusion incluse

- Toutes les données indiquées ici reposent sur les normes d'essai de Canon.
- Les caractéristiques techniques et l'aspect sont susceptibles d'être modifiés sans préavis.

Dichiarazione di non responsabilità

- Canon ha compiuto ogni sforzo per assicurare che le informazioni contenute nella presente Guida siano precise e complete e non si assume alcuna responsabilità in caso di errori od omissioni. Canon si riserva il diritto di modificare, in qualsiasi momento e senza preavviso, le specifiche dell'hardware e del software ivi descritte.
- La riproduzione, la trasmissione, la trascrizione o la memorizzazione in un sistema di ricerca delle informazioni, anche parziali, nonché la traduzione in altra lingua, in qualsiasi forma, sono assolutamente vietate senza la preventiva autorizzazione scritta di Canon.
- Canon non risponde dei danni derivanti da alterazioni o perdite di dati dovute ad un uso errato o al malfunzionamento del prodotto, del software, delle schede di memoria, dei personal computer o delle periferiche.

Vi preghiamo di leggere attentamente questo manuale per utilizzare correttamente la Custodia Impermeabile.

Una volta che avete letto questo manuale conservatelo in un posto sicuro per ulteriori consultazioni.

Introduzione

- Vi ringraziamo per aver acquistato la Custodia Impermeabile. Una volta installata nella Custodia Impermeabile, potrete utilizzare la vostra Fotocamera Digitale Canon sotto la pioggia, sulla spiaggia o sulle piste da sci. Potete anche utilizzarla sott'acqua fino a 40 metri di profondità e in ambienti umidi o polverosi.

- Prima di utilizzare la Custodia Impermeabile, assicuratevi che funzioni correttamente e che non si verifichino infiltrazioni d'acqua. Chiudete la Custodia Impermeabile prima di inserire la fotocamera al suo interno e tenetela sott'acqua ad una profondità di circa 15 centimetri per circa tre minuti per controllare che non ci siano infiltrazioni. Eseguite un analogo controllo dopo aver inserito la fotocamera. Qualora nella Custodia Impermeabile dovesse entrare acqua, contattate il Centro Assistenza Canon più vicino.

- Canon Inc., le sue consociate e affiliate e i distributori della Custodia Impermeabile non sono responsabili per eventuali danni conseguenti causati dal danneggiamento o dalla perdita di dati derivante da un uso sbagliato o da malfunzionamento della Custodia Impermeabile, della fotocamera, delle batterie o della scheda di memoria, che vi impediscono di registrare le immagini.
- Si prega inoltre di leggere attentamente la *Guida dell'utente della fotocamera* fornita in dotazione.

Disimballaggio

La Custodia Impermeabile viene spedita con i prodotti elencati di seguito. Controllate immediatamente la confezione e verificate che contenga tutte le parti indicate. Se dovesse mancare qualcosa, contattate il rivenditore Canon da cui avete acquistato la Custodia Impermeabile.

- Custodia Impermeabile
- Cinghia da collo
- Cinghia da polso
- Diffusore
- Grasso al silicone per la Guarnizione Impermeabile
- Guida dell'utente (la presente guida)

Venduto separatamente

- Peso della Custodia Impermeabile Canon WW-DC1

Quando utilizzate la Custodia Impermeabile per scattare fotografie sott'acqua, il peso impedisce alla custodia di galleggiare. Si rimanda alle specifiche principali (pagina 20)

per informazioni riguardanti il numero di pesi consigliati per questa installazione. Per informazioni riguardanti i metodi di fissaggio, si rimanda alla guida dell'utente per i pesi.

Precauzioni di sicurezza

Prima di utilizzare la Custodia Impermeabile, leggete accuratamente queste precauzioni per utilizzarla in modo sicuro.

Le precauzioni descritte sotto riportano informazioni sull'utilizzo sicuro della Custodia Impermeabile e sulla prevenzione di pericoli e di danni a voi stessi e agli altri. Leggete attentamente queste precauzioni prima di leggere il resto di questa guida.

- Dopo aver utilizzato la Custodia Impermeabile rimuovete la fotocamera. In caso contrario, lasciando la fotocamera nella custodia, all'esposizione alla luce diretta del sole o alle temperature elevate si possono verificare incendi o la custodia potrebbe scoppiare.
- Non utilizzate la Custodia Impermeabile come salvagente (giubbotto di salvataggio).

- Non utilizzate la cinghia da collo nell'acqua. Prima di utilizzare la Custodia in acqua, rimuovete la cinghia da collo e montate la cinghia da polso. La cinghia da collo potrebbe impigliarsi e causare strangolamenti o altri incidenti.
- Non utilizzate la Custodia Impermeabile ad una profondità superiore a 40 metri. Potrebbero verificarsi malfunzionamenti o infiltrazioni d'acqua.
- Non premete i pulsanti e la leva della Custodia Impermeabile esercitando una forza eccessiva, quando la custodia è in acqua. La custodia potrebbe piegarsi e potrebbero verificarsi delle infiltrazioni d'acqua.
- Quando lavate la custodia, evitate getti violenti direttamente su di essa. Ciò potrebbe causare infiltrazioni d'acqua.
- Non smontate o modificate la Custodia Impermeabile. Potrebbero verificarsi infiltrazioni d'acqua.
- Non danneggiate la Guarnizione Impermeabile, non scalfite le superfici di contatto e non lasciate che sporco, sabbia, capelli o altro

materiale si depositi tra la Guarnizione Impermeabile e la custodia. Potrebbero verificarsi infiltrazioni d'acqua.

- Non utilizzate la Custodia Impermeabile nell'acqua a temperature superiori ai 40 °C. Il calore potrebbe deformarla e causare infiltrazioni d'acqua.
- Non esponete la Custodia Impermeabile alla luce solare diretta o non lasciatela dentro una vettura in pieno giorno o vicino a un radiatore. L'esposizione diretta al sole o una temperatura eccessiva potrebbero deformare la Custodia Impermeabile e causare infiltrazioni d'acqua. Copritela con un asciugamano se dovete lasciarla al sole.

Precauzioni di impiego

- Non fate cadere la Custodia Impermeabile.
- Utilizzate solamente il grasso al silicone fornito. L'utilizzo di altri prodotti impermeabilizzanti potrebbe diminuire la resistenza della Custodia Impermeabile. Qualora venisse applicato per errore un altro prodotto impermeabilizzante, rimuovetelo immediatamente.
- Evitate di aprire o chiudere la Custodia Impermeabile vicino all'acqua. Quando dovete inserire la fotocamera digitale o sostituire la scheda di memoria o la batteria, scegliete un luogo asciutto, con livello ridotto di umidità, lontano dall'aria salmastra.
- Evitate di utilizzare la Custodia Impermeabile a lungo, a temperature elevate.
- La durata delle batterie si riduce in ambienti con temperature basse. Quando utilizzate la Custodia Impermeabile in luoghi molto freddi, tenetela al caldo mettendola in una borsa ogni volta che non la utilizzate. È sconsigliabile utilizzare la Custodia Impermeabile in ambienti a temperature sotto lo zero.

- Il repentino spostamento della Custodia Impermeabile da un luogo caldo a uno freddo può causare la formazione di condensa (gocce d'acqua) sulle sue superfici interne. In questo caso, smettete immediatamente di utilizzare la fotocamera poiché la condensa potrebbe causare malfunzionamenti. Rimuovete la fotocamera dalla Custodia Impermeabile e pulite la condensa della custodia e della fotocamera utilizzando un panno morbido e asciutto; prima di ricominciare a utilizzarla, attendete che l'umidità sia evaporata completamente.

Infiltrazioni d'acqua

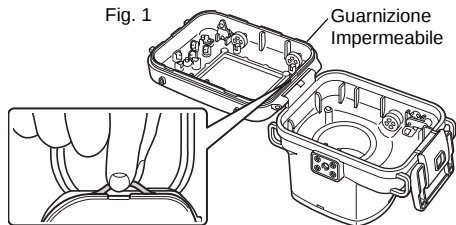
Nel caso in cui si verifichi un'infiltrazione d'acqua, smettete immediatamente di utilizzare la Custodia Impermeabile. Se usate la fotocamera in queste condizioni correte il rischio che s'incendi o che emetta scosse elettriche. Non usatela mai in queste condizioni. Asciugate accuratamente la parte interna della Custodia Impermeabile e la fotocamera digitale. Contattate il Centro Assistenza Canon più vicino.

Guarnizione Impermeabile

- Eventuali materiali estranei (es. sabbia, sporco o capelli) accumulatisi sulla Guarnizione Impermeabile potrebbero essere causa d'infiltrazioni d'acqua. Anche un solo capello o un granellino di sabbia depositatosi sulla guarnizione potrebbe essere causa d'infiltrazioni.

- Usate le dita per rimuovere la guarnizione dalla Custodia Impermeabile così da non danneggiarla (come mostrato in Fig. 1). Non infilate le unghie nella guarnizione e non usate oggetti appuntiti o metallici per rimuoverla.
- Non tirate la guarnizione. Se viene tirata, questa potrebbe allungarsi e la custodia potrebbe non chiudere più bene e causare infiltrazioni d'acqua.
- Quando installate la Guarnizione Impermeabile, non torcete e non tirate la guarnizione con forza. Controllate con estrema attenzione che la Guarnizione Impermeabile combaci perfettamente con la scanalatura per l'installazione. Controllate che la Guarnizione Impermeabile funzioni.

Fig. 1



- Fate attenzione a non applicare troppo grasso. Applicare troppo grasso sulla guarnizione potrebbe essere causa d'infiltrazioni d'acqua (è sufficiente una piccola goccia).
- Per applicare il grasso sulla guarnizione non usate carta o un panno.
- Una Guarnizione Impermeabile danneggiata e incrinata potrebbe causare infiltrazioni d'acqua. Contattate il Centro Assistenza Canon più vicino.

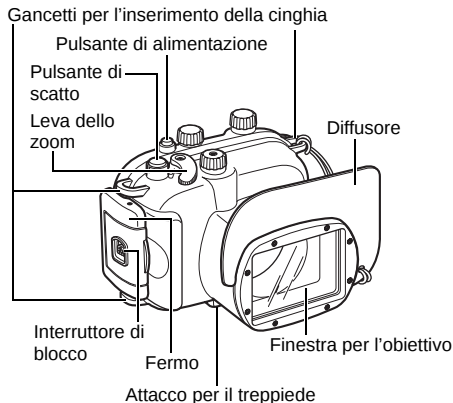
Per mantenere l'impermeabilità della Custodia Impermeabile, vi raccomandiamo di sostituire la guarnizione una volta all'anno. Contattate il Centro Assistenza Canon più vicino.

Manutenzione della Guarnizione Impermeabile

- Lavate l'esterno della Custodia Impermeabile con acqua pulita (acqua corrente di rubinetto inferiore a 30°C, ecc.) entro breve tempo dall'uso. Dopo averla utilizzata nell'acqua marina, è particolarmente consigliabile immergerla nell'acqua pulita per qualche ora per rimuovere depositi di sale. **Verificate di aver chiuso saldamente il fermo in modo da impedire che l'acqua entri nella custodia.** Dopo averla lavata, pulitela con un panno morbido e asciutto. Per evitare di graffiare la Custodia Impermeabile, non strofinatela se sono presenti residui di sabbia. In caso si formino depositi di sale, le parti metalliche possono arrugginire o i tasti diventare duri da premere. Pulite la parte interna della custodia con un panno morbido e asciutto. Non lavatela con acqua.

Componenti

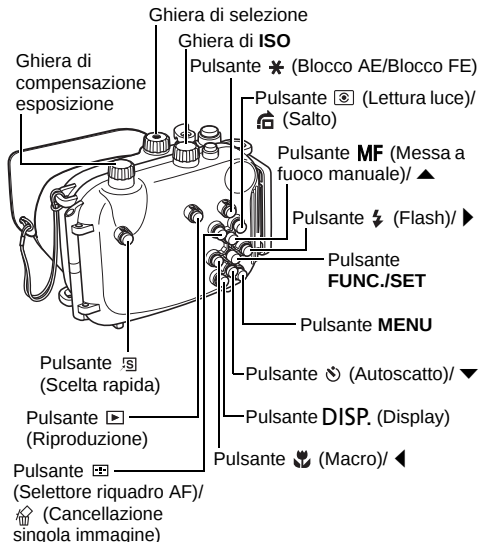
Parte anteriore



Finestra per l'obiettivo

Poiché lo sporco o le macchie presenti sulla finestra per l'obiettivo potrebbero apparire nelle fotografie, pulitela delicatamente utilizzando un panno morbido e asciutto.

Parte posteriore



Preparazioni

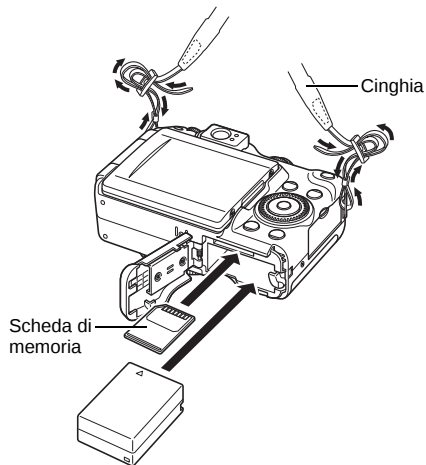
Preparazione della fotocamera digitale

1 Controllate che la fotocamera sia spenta e aprite lo slot della scheda di memoria/coperchio della batteria.

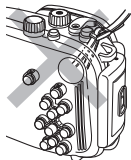
2 Inserite la batteria e la scheda di memoria.

- Per informazioni sui metodi di installazione della batteria e della scheda di memoria, consultate la *Guida dell'utente della fotocamera*.
- Usate una batteria adeguatamente caricata.
- Assicuratevi che sulla scheda di memoria sia presente sufficiente spazio per la registrazione delle immagini.

3 Rimuovete la cinghia della fotocamera.



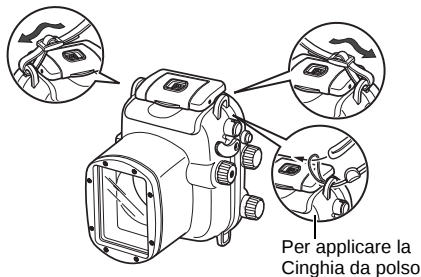
L'inserimento della fotocamera con la cinghia attaccata potrebbe intrappolare la cinghia nella Custodia Impermeabile e causare infiltrazioni.



Non utilizzate la cinghia della fotocamera come cinghia per la Custodia Impermeabile.

Preparazione della Custodia Impermeabile

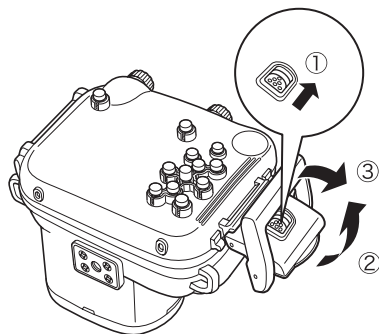
- 4** Fissate entrambe le estremità della cinghia da collo agli appositi gancetti come indicato, e regolatela a una lunghezza comoda.



Quando trasportate la fotocamera in spiaggia, utilizzate la cinghia da collo. Prima di utilizzare la Custodia in acqua, rimuovete la cinghia da collo e montate la cinghia da polso. Vi è il rischio che la cinghia da collo si attorcigli causando strangolamento o altre situazioni pericolose.

5 Spostate l'interruttore di blocco come mostrato nell'illustrazione, e rilasciate il fermo per aprire il coperchio posteriore.

- Quando utilizzate prodotti anticondensa, disponibili in commercio, applicate la soluzione anticondensa solo all'interno della finestra dell'obiettivo, usando un panno morbido. Se la soluzione anticondensa viene a contatto con una superficie che non sia quella della finestra dell'obiettivo, strofinatela via immediatamente usando un panno morbido e asciutto in quanto potrebbe essere causa di deterioramento della Custodia Impermeabile.



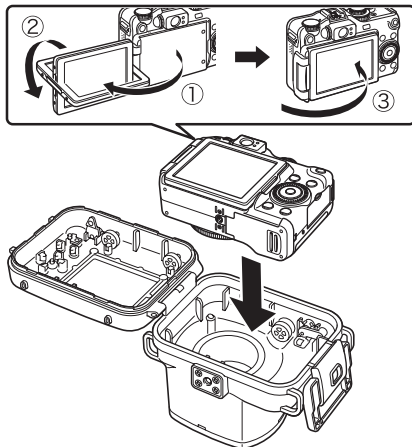
Prima di usare la Custodia Impermeabile, applicate uno strato sottile di grasso su tutta la guarnizione in modo da prevenire rischi di abrasioni e deterioramento.

Per le precauzioni su come maneggiare la Guarnizione Impermeabile, leggete "Guarnizione Impermeabile" a pagina 6.

1. Rimuovete la Guarnizione Impermeabile.
2. Usando un batuffolo di cotone rimuovete qualsiasi materiale estraneo (es. sabbia, sporco, capelli) eventualmente presente sulla Guarnizione Impermeabile e sulla scanalatura per l'installazione della guarnizione della Custodia Impermeabile.
3. Applicare una piccola quantità (una gocciolina) di grasso sulla punta del dito.
4. Coprite uniformemente l'intera superficie della Guarnizione Impermeabile, facendo attenzione a non graffiarla.
5. Riposizionate la Guarnizione Impermeabile nella scanalatura per l'installazione della guarnizione della Custodia Impermeabile.

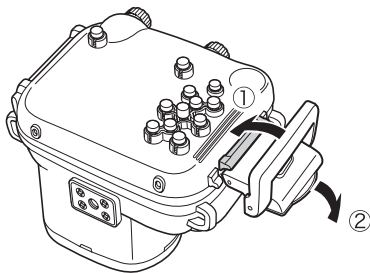
Installazione della fotocamera digitale

6 Aprite il monitor LCD e inserite la fotocamera nella Custodia Impermeabile, come illustrato.

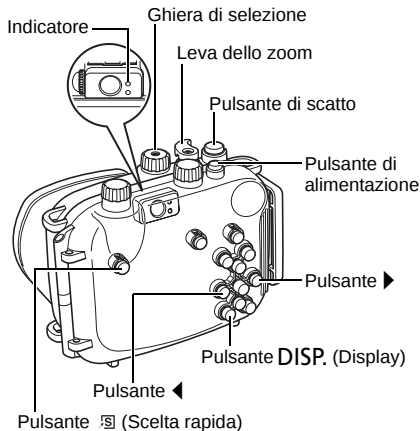


7 Chiudete la Custodia Impermeabile.

- Assicuratevi che non vi sia alcun materiale estraneo sulla Guarnizione Impermeabile e sulle sue superfici di contatto (ad es. sabbia, polvere o capelli). **Anche un solo capello o un granellino di sabbia depositatosi sulla guarnizione potrebbe essere causa d'infiltrazioni.**
- Assicuratevi che il fermo sia chiuso correttamente.



Ripresa



- 1 Per accendere la fotocamera premete il pulsante di alimentazione.

2 Impostate il selettore di modalità sulla modalità desiderata.

3 Regolate le impostazioni come richiesto.

- Premete il pulsante **DISP.** per fare accendere il monitor LCD.
- È possibile regolare lo zoom usando la leva zoom.

Impostazione della modalità Scene Speciali su (Subacqueo)

In caso di utilizzo sott'acqua, impostate la modalità scene speciali su  (Subacqueo). Questa modalità imposta il bilanciamento del bianco ottimale per le riprese sott'acqua e attenua le dominanti blu.

1. Impostate la ghiera di selezione su **SCN** (modalità scene speciali).
2. Premendo il pulsante  (Scelta rapida), servitevi dei pulsanti  o  per selezionare .

Fotografare quando la ghiera di selezione è posizionata su , **P, **Tv**, **Av** o **M****

Usando il menu FUNC. per le suddette modalità, potete regolare il bilanciamento del bianco su  (Subacqueo).

Se assegnate la funzione  o  (Person.Bilanc.Bianco 1 o 2) al pulsante  potete impostare manualmente il bilanciamento del bianco con la pressione di un singolo pulsante.

Ciò è raccomandato per regolare il bilanciamento del bianco alle condizioni di scatto.

4 Utilizzate il monitor LCD per comporre lo scatto. Premete il pulsante di scatto fino a metà corsa ed attendete fino a quando l'indicatore superiore emette una luce verde o arancione. Quando si accende, premete completamente il pulsante di scatto.

- Assicuratevi che la finestra per l'obiettivo sia sempre pulita.
- Assicuratevi di non ostruire con le vostre dita o con la Cinghia da polso la finestra per l'obiettivo, il flash o il diffusore durante la ripresa.

- Se la funzione di risparmio energia spegne l'unità, premete nuovamente il pulsante di alimentazione.
- Non è possibile acquisire immagini con il mirino.

- Anche se impostate il selettore di modalità su , non potrete scattare le fotografie correttamente poiché non potete utilizzare la funzione di ricerca.

Utilizzo della ghiera di comando

L'utilizzo della ghiera di comando con la Custodia Impermeabile è leggermente diverso da quello della fotocamera stessa.

1. Per ruotare la ghiera di comando in senso orario, premete il pulsante ► mantenendo premuto il pulsante .
2. Per ruotare la ghiera di comando in senso antiorario, premete il pulsante ◀ mantenendo premuto il pulsante .

5 Al termine dell'utilizzo della fotocamera, spegnetela.

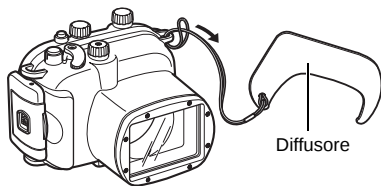
Utilizzo del Flash

Per distribuire uniformemente la luce del flash, fissate il diffusore.

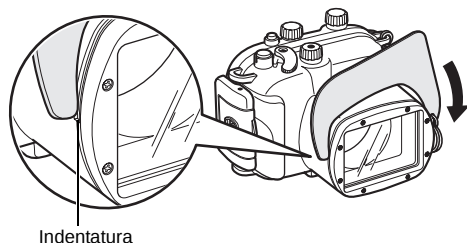
- Non graffiate la superficie del diffusore, perché ciò potrebbe impedire alla luce del flash di diffondersi correttamente.
- Quando si usa il flash, nell'angolo inferiore destro dell'immagine potrebbe apparire un'ombra. In tal caso si consiglia di scattare una nuova foto dopo avere montato lo schermo di diffusione.

Attacco del diffusore

- 1** Infilate la cordicella attraverso il gancetto come mostrato.

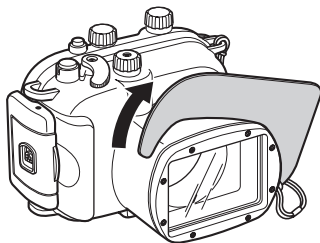


- 2** Inserite l'estremità del diffusore nell'indentatura.



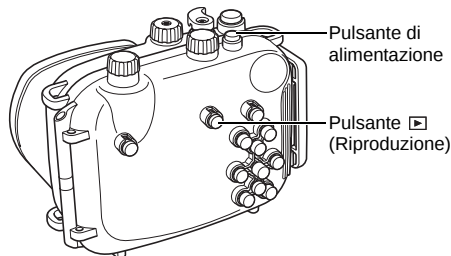
Rimozione del diffusore

Sollevate e rimuovete il diffusore.



Riproduzione

1 Premete il pulsante ► (Riproduzione).



2 Al termine dell'utilizzo della fotocamera, spegnetela.

Dopo aver usato la Custodia Impermeabile, rimuovete la fotocamera dalla stessa. Se lasciate la custodia con la fotocamera all'interno, esposta alla luce solare diretta o in un luogo molto caldo, potrebbero verificarsi un incendio o la custodia potrebbe scoppiare.

Rimozione della fotocamera digitale

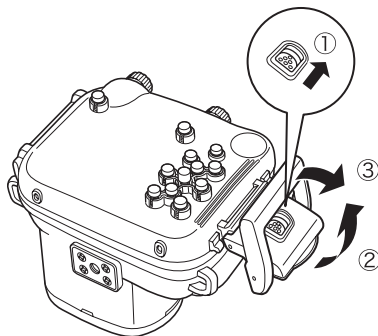
1 Dopo l'utilizzo, asciugate completamente la Custodia Impermeabile.

- Togliete ogni traccia di sporco, sabbia, capelli o altri detriti dalla Custodia Impermeabile e lavatela con acqua corrente di rubinetto per rimuovere i depositi di sale.

2 Spostate l'interruttore di blocco come mostrato nell'illustrazione e rilasciate il fermo per aprire il coperchio posteriore. Quindi rimuovete la fotocamera digitale dalla custodia.

- Fate attenzione a non far cadere gocce d'acqua dai vostri capelli o dal vostro corpo sulla fotocamera digitale o sulla parte interna della Custodia Impermeabile quando la custodia è aperta.

- Non lavate la parte interna della Custodia Impermeabile con acqua. Pulitela con un panno morbido e asciutto.



Conservazione

- Riponete la Custodia Impermeabile con cura, lasciandola aperta per evitare che la Guarnizione Impermeabile si deformi e per mantenere la sua impermeabilità.
- Proteggete la Guarnizione Impermeabile da polvere o da scalfiture durante la conservazione.
- Non conservate la Custodia Impermeabile in luoghi caldi, freddi o umidi, o vicino a sostanze come naftalina o insetticidi.

Specifiche tecniche

Proprietà di resistenza all'acqua:

Conforme alla classe di protezione IEC/JIS "IPX8" equivalente
Da utilizzare entro il limite di profondità di 40 m

Impermeabilizzazione:

Guarnizione, anello di tenuta, ecc.

Materiali principali:

Policarbonato, ABS, vetro trasparente, EPDM, ecc.

Temperatura di funzionamento della fotocamera:

0 – 40 °C

Dimensioni: 153,5 × 107,5 × 119,1 mm
(sporgenze escluse)

Volume: Circa 1150 cm³

Peso: Circa 575 g
(Solo Custodia Impermeabile*)

Numero raccomandato per il montaggio di pesi per la Custodia Impermeabile (WW-DC1) venduti separatamente:
4 pesi

* Incluso il diffusore

- Tutti i dati elencati qui si basano su standard di collaudo di Canon.
- Le specifiche di prodotto e l'aspetto sono soggetti a modifiche senza preavviso.

免责声明

- 本说明书所包含的数据已力求内容的正确与完整，如有任何错误或遗漏恕不承担任何责任。佳能公司保留随时变更本说明书所提及的硬件及软件的规格的权利而无须事先声明。
- 未经佳能公司事先书面授权，不得以任何形式，任何手段将本说明书的任何部分复制、传输、转录、存储于可检索系统中或翻译为任何语言。
- 佳能公司对于因本相机、软件、存储卡、个人计算机、外围设备的错误使用或故障而导致的数据损毁或遗失所带来的损失，不负任何责任。

请仔细阅读本说明书，以确保您能正确地使用本防水套。

并请在读完后妥善保存本说明书，以备日后查阅。

简介

- 竭诚感谢购买本商品。将防水套装在佳能数码相机上后，您可在下雨时或在海滩、滑雪场拍摄。并可在水深 40 米以内的水中以及潮湿或多尘的环境下进行拍摄。

- 使用前，请务必检查本防水套是否能正常操作并确保不漏水。将相机装入防水套之前，先关闭防水套，将防水套浸入水深约 15 厘米处三分钟左右，检查是否漏水。装入相机后请执行同样防漏检查程序。
如果漏水，请与佳能热线中心联系。

- 佳能、佳能的子公司和分支机构以及防水套的经销商对于因错误操作防水套、相机、电池或存储卡，或者因为这些产品的故障造成的无法记录图像，引起的数据损坏或丢失而带来的任何后果概不负责。
- 也请仔细阅读相机随附的 *相机使用说明书*。

检查包装内的物品

本产品的包装中应有下列产品。请检查包装中的物品以确认其是否齐全。如果产品不齐全，请与售出该产品的佳能经销商联系。

- 防水套
- 背带
- 腕带
- 扩散闪光板
- 防水封条用硅润滑脂
- 使用说明书（本书）

另购件

- 佳能防水罩配重器 WW-DC1

使用防水套在水下拍摄照片时，配重器可防止防水套漂浮。有关推荐安装的配重器数量的详细说明，请参阅主要规格（第 18 页）。有关安装方式的详细说明，请参阅配重器使用者指南。

安全注意事项

使用前请仔细阅读这些安全注意事项，以确保您能正确使用本产品。

此处所列的注意事项是为了用户能安全正确地使用本产品，防止您或他人遭受危害或损失。请完全理解其内容后，再阅读本说明书的其余部分。

- 使用防水套后，请务必从中取出相机。如果将装有相机的防水套放在直射阳光下或高温处时，可能会导致起火或使防水套爆裂。
- 请勿将防水套当作个人漂浮装置（救生衣）使用。
- 请勿在水中使用时背带。在水中使用前，请解下背带并系上腕带。否则会有背带缠绕引起窒息或其他伤害的危险。
- 请勿在水深超过40米的水中使用本产品。否则可能会导致防水套故障、损坏或漏水。
- 在水中时，请勿用过大的力按压防水套的按钮或杆。否则可能会使外壳变形，引致漏水。
- 在清洗时，请勿用湍急的自来水冲洗防水封条，否则可能会导致漏水。
- 请勿拆卸或改装本产品。否则可能会引致漏水。

- 请勿损坏防水封条，擦伤其接触表面，或让脏物、沙尘、毛发或其他异物积聚在防水封条和防水套之间。这可能会导致漏水。
- 请勿在水温超过40℃的水中使用本产品。否则可能会受热变形、引致漏水。
- 请勿放在阳光直射的地方，加热器附近或炎热天气下的汽车内。否则可能会使外壳受热变形，引致漏水。在阳光直射的地方请盖上毛巾等遮挡阳光。

使用时的注意事项

- 请勿投掷或摔落防水套。
- 请勿使用所附的硅润滑脂之外的防水产品，否则可能会降低防水套的防水强度。若意外沾上时请立即擦去。
- 请尽量避免在水边打开或关闭防水套。应在湿度低，海风吹不到的地方安装相机、更换存储卡或电池等。
- 请避免长时间在高温环境下使用本产品。
- 在寒冷的地区使用时，请将电池放入包中保温，只在拍摄时取出使用（在寒冷地区，电池的使用寿命会缩短）。不建议在周围温度低于 0℃ 的条件下使用本产品。
- 短时间内在温差很大的场所间移动可能会使防水套的内表面出现结露（水珠）。此时，请立即停止使用相机，否则，结露会引起故障。从防水套中取出相机并且用软布擦去防水套和相机上的水珠，等水气完全蒸发以后再使用。

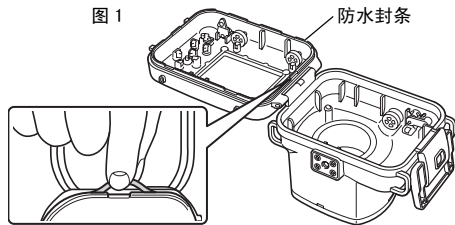
关于漏水

如果防水套漏水，请立即停止拍摄。如果在这种情况下继续使用，可能会导致起火或引起触电。故在这种情况下切勿继续使用。请彻底擦干防水套内部和相机的水分，请联系佳能热线中心。

防水封条

- 沾在防水封条上的异物（例如沙尘、脏物或毛发）可能会造成漏水。封条上的一丝毛发或一粒细沙也会造成漏水。
- 要取出防水套的防水封条时，请用手指进行（请参照图 1），才不会损坏防水封条。切勿用指甲挑起，或使用尖利物或金属物取出防水封条。
 - 请勿拉伸防水封条，以免其过度伸长而导致防水套关闭不严和漏水。
 - 将防水封条安装在防水套上时，请勿用力扭曲或拉防水封条。要十分小心，确保安装槽周围的防水封条平整。检查确认防水封条能正确地起到密封作用。

图 1



- 注意请勿涂抹过多的润滑脂。将过多的润滑脂涂抹在封条上可能会造成漏水（约一小滴已足够）。
- 请勿用纸张或布片将润滑脂涂抹在封条上。
- 防水封条的损伤和裂缝可能会引致漏水。请联系佳能热线中心。

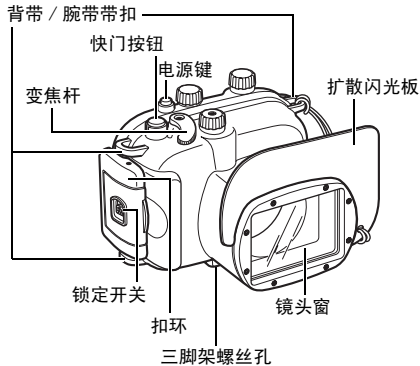
为了维持防水套的防水性能，推荐一年更换一次防水封条。更换时，请联系佳能热线中心。

保养方法

- 使用后请尽快用足够的清水（低于30℃的自来水等）彻底清洗防水套的外部。在海水中使用过后，为了去除沉淀的盐分，建议在清水中浸泡几小时。**请确保已将扣环锁紧以防水分进入防水套。**清洗后，请用软布擦干防水套。为避免刮伤，请勿在防水套上有任何沙子或砂砾时擦防水套。如果盐分残留，金属部分可能会生锈或者按钮难以按下。请用柔软干布擦拭防水套的内部，不要用水洗涤。

部件

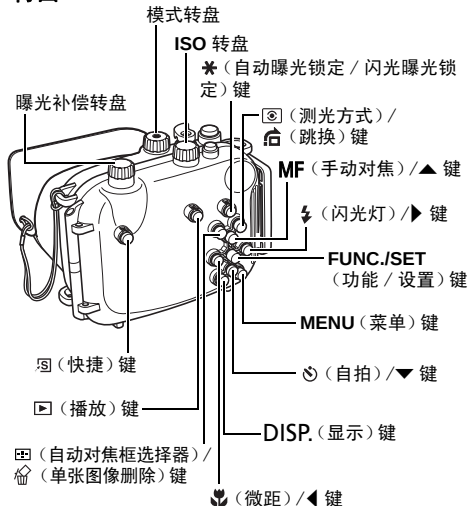
正面



镜头窗

因为镜头窗变脏后，可能会在图像上留下污垢的痕迹，所以请用软布轻轻地擦拭，以保持镜头窗清洁。

背面

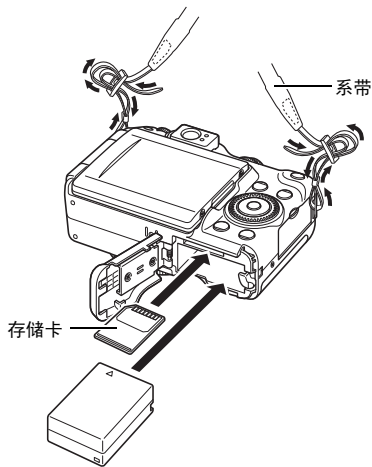


准备

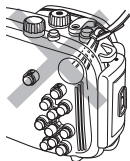
准备相机

- 1 确认相机电源已关闭，然后打开存储卡插槽 / 电池盖。
- 2 插入电池和存储卡。
 - 关于电池和存储卡的安装方式等信息，请参阅 *相机使用者指南*。
 - 请用已充足电的电池。
 - 请确定您的存储卡上有足够的存储空间记录图像。

3 取下相机的系带。



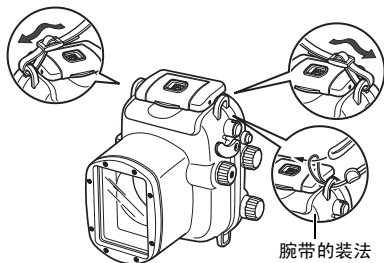
不取下系带时插入相机，
关闭防水套时系带可能会
夹在防水套中，从而导致
漏水。



请勿将相机的系带用作防水套的系带。

准备防水套

- 4** 请如图所示将背带两端固定在背带带扣上，并调节至舒适长度。



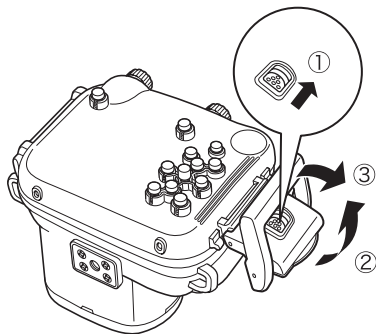
腕带的装法



在海边时请使用背带携带相机。在水中使用前，
请解下背带并系上腕带。否则会有背带缠绕引
起窒息或其他伤害的危险。

5 将锁定开关往箭头方向移动，解开扣环，打开背盖。

- 使用市面销售的防结露产品时，只能用软布将防结露溶液涂抹在镜头窗的内表面。如果防结露溶液沾在镜头窗内表面之外的地方，请立即用软布将其擦去，否则会损坏防水套。



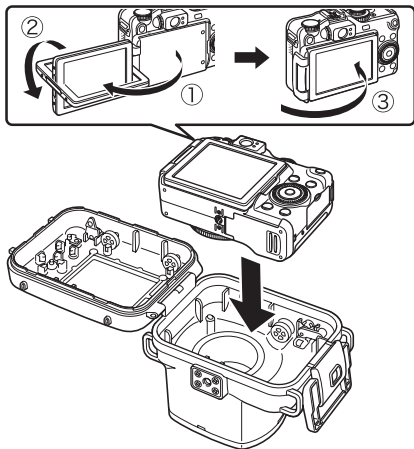
使用防水套之前，请在整个封条上涂一层薄薄的润滑脂，以防擦伤和损坏。

有关处理防水封条的注意事项，请参照第 5 页的“防水封条”。

1. 把防水封条取出。
2. 用棉花球清除所有出现在封条上和防水套的封条安装槽内的异物（如脏物、沙尘或毛发等）。
3. 用手指沾上一小滴润滑脂。
4. 将润滑脂均匀涂满整个防水封条表面，注意不要擦伤表面。
5. 将防水封条装回防水套的安装凹槽内。

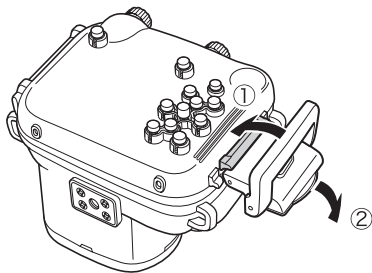
将相机插入防水套

- 6 打开液晶显示屏，然后如图所示将相机插入防水套。

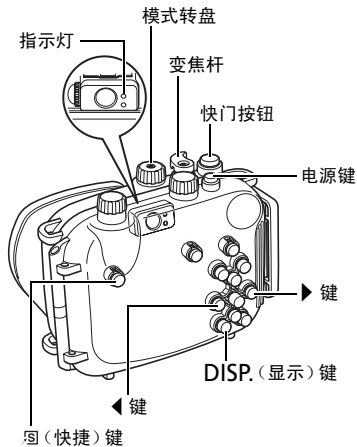


7 关上防水套。

- 请检查防水封条和其接触面是否有异物（沙尘、脏物或毛发等）。封条上的一丝毛发或一粒细沙也会造成漏水。
- 请检查扣环是否锁紧。



拍摄



- 1 按电源键打开电源。
- 2 将模式转盘设在所需模式。
- 3 根据需要，进行各种设置。
 - 按下 DISP. (显示) 键，打开液晶显示屏。
 - 可用变焦杆调节变焦。

将特殊场景模式设为 (潜水)

在水下拍摄时，将特殊场景模式设为  (潜水) 可以获得更自然的色彩。该模式选择了水下光线最佳的白平衡，同时抑制了蓝色调。

1. 将模式转盘设为 SCN (特殊场景模式)。
2. 按住  (快捷) 按钮时，使用  或  按钮选择 .

当模式转盘设于 、P、Tv、Av 或 M 模式的拍摄方法

相机在上述模式时，可使用 FUNC. 菜单将白平衡设于 （潜水）。

请注意，如果您将  或 （自定义白平衡 1 或 2）的功能指定于  键，进行手动设置白平衡时，只需按下一个按键便可。

建议使用此方法在各种拍摄环境下进行白平衡调整工作。

4 用液晶显示屏取景。半按快门按钮，待上侧的指示灯变为绿色或橙黄色后全部按下快门按钮。

- 请确保镜头窗始终保持干净。
- 拍摄时，请注意不要让手指及腕带挡住镜头窗、闪光灯或扩散闪光板。

- 如果节电功能启动并且关闭了相机电源，请再次按下电源键。
- 不能用取景器拍摄照片。
- 由于无法使用取景器，即使将模式开关设为  也无法正常拍摄图像。

使用控制转盘

加装防水套前后，控制转盘的使用方法略有不同。

1. 想要顺时针转动控制转盘时，请在按下  键的同时按下  键。
2. 想要逆时针转动控制转盘时，请在按下  键的同时按下  键。

5 相机用完后，请关闭相机电源。

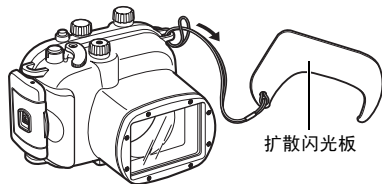
使用闪光灯

为了要使闪光灯的光线平均分布，请加装扩散闪光灯板。

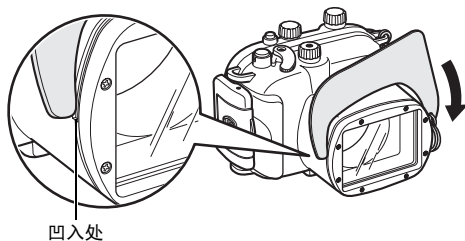
- 切勿刮擦扩散闪光灯板表面，否则可能会阻碍闪光灯光线均匀扩散。
- 当使用闪光灯拍摄时，部分图像可能会出现阴影。在此情况下，请加装扩散闪光灯板来进行拍摄。但是，如果拍摄目标太接近相机时，扩散闪光灯板的效果可能不明显。

加装扩散闪光灯板

1 将细绳如图穿过带扣。

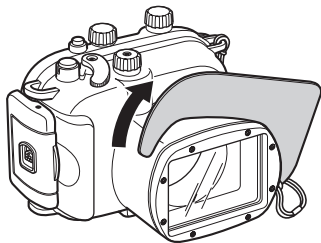


2 将扩散闪光灯板的边缘插入凹入处。



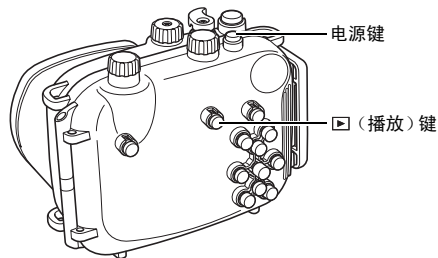
取下扩散闪光板

抬起并取下扩散闪光板。



播放

1 按下  (播放) 键。



2 相机用完后，请关闭相机电源。

用完防水套后，请务必取出相机。将装有相机的防水套放在阳光下直射或高温处，可能会导致起火或使防水套破裂。

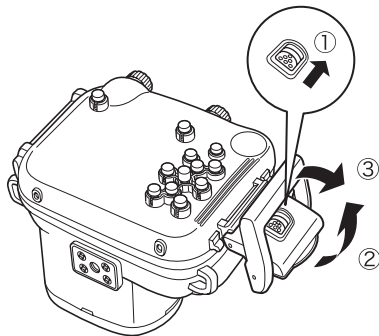
取出相机

1 使用后，请将沾在防水套上的水滴全部擦干。

- 请将沾在防水套上的脏物、沙子、头发或其他异物去掉，并用清洁的流动的自来水冲掉盐渍。

2 将锁定开关往箭头方向移动，解开扣环，打开背盖，取出相机。

- 打开防水套时，请注意不要使水滴从身上或头发上掉落进防水套内或相机上。
- 用软布擦拭防水套内部，请勿用水洗涤。



存放时的注意事项

- 小心存放防水套，存放时将其展开，防止防水封条变形，以维持其防水性能。
- 存放防水封条时请注意不要沾上灰尘，或擦伤防水封条。
- 请勿将防水套存放在高温、低温、潮湿或放有卫生球或防虫剂的地方。

规格

防水能力:	符合 IEC/JIS 防水保护规格, 相当于第 8 级 适用于 40 米深度内
防水结构:	防水封条、O 形环等
主要材料:	聚碳酸酯、ABS、透明玻璃片、EPDM 等
相机的操作温度:	摄氏 0-40 度
尺寸:	153.5 × 107.5 × 119.1 毫米 (不包括突出部分)
容积:	约 1150 立方厘米
重量:	约 575 克 (仅防水套*)
防水套配重器 (WW-DC1) (另售) 推荐安装数目:	4 个

* 包括扩散闪光板

- 此处提供的所有数据均基于佳能公司的测试标准。
- 产品规格及外观如有变更, 恕不另行通知。

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

Canon

FOR P. R. C. ONLY

进 口 商：佳能（中国）有限公司

进口商地址：北京市东城区金宝街 89 号金宝大厦 15 层
邮编 100005

日本制造

初版：2009. 07

CDI-M442-010

XXXXXXXXX

© CANON INC. 2009

PRINTED IN JAPAN
IMPRIMÉ AU JAPON